

石井方式 漢字の覚え方

基礎編

漢字の九十パーセント以上が形声字であり、これが漢字の最も漢字らしいところである。この構造をよく理解し、部首の意味を知れば、漢字のもっと深い意義がわかり、はじめて見る漢字でも理解することができるようになる。今まで、この学び方をだれも教えてくれなかったから、苦勞して学習してもなかなか身につかなかった。諸君はこの編をよく学習して、形声字の真髄を理解し、漢字に強くなっていたきたい。

士^シ

役人が威儀を正して地上に直立している象形。

①官吏（卿・大夫に次ぐ）例 士・大夫

②武官（さむらい）例 武士・士卒

③成人した男子 例 士民

④学問に志す人

⑤学徳の成った人 例 士君子

仕^シ

①人が官吏となるのは“つかえる”ためである

↓つかえる 例 仕官・奉仕

志^シ

①心に士となろうと“こころざす”

↓こころざす 例 志望・志願・立志・初志

誌^シ

心の動きをことばとして“書きとめる”（止）

↓しるす 例 日誌 (日日誌す)・雑誌
 ×痣 シ 皮膚にしるされたもの
 ↓あざ

問 次の「士」の意味を考えよ。

- 一、士は以て弘毅ならざるべからず。
 二、吉田松陰は士規七則を作る。

答：一：④

二：②

寸 スン

𠂔

手の象形に、脈所の位置を示した指事字。手首から脈所までの長さが寸。

- ① 長さの単位 (約三センチメートル)
 ② (長さの) 基準

③ きまり (規則)

④ 手

討 トウ ③ きまりに従って議論する

↓相手の諭旨の欠点を攻撃する 例 討論

↓相手の軍隊を攻撃する (うつ) 例 討伐・征討

導 ドウ ② 頼るべき基準に従って人を道びく

↓みちびく 例 教導・指導・誘導

守 シュ ③ 家にきまりが行なわれている

↓まもる 例 守備・守護・攻守

尊 ソン ④ 酒器を捧げて、神または貴人に供える

↓たつとぶ (神・貴人を) 例 尊敬・尊皇

編者注

以下、表記の部首を用いた各漢字で、当該部首が表わす意味に相当する番号を示している。

参考 字音と字訓 (一)

漢字にはふつう「音」と「訓」とある。音とは、漢字が日本に取り入れられた時の中国読みのことであり、訓とは、その漢字にあたるわが国のことばのことである。



たとえば、「花」という漢字は、中国では「カ」と発音されるので、「カ」が音である。
「造花」(ソウカ)「花瓶」(カビン)という使い方がこれである。それは、わが国では「はな」ということばにあたるので、「花」を「はな」と読む読み方が生じた。これが訓である。

×樽(ソン) 酒を入れる木の容器

↓たる 例 酒樽さかだる

射(シャ) ④ 身は「ヤ」の変形。弓に手をかける

↓いる 例 射撃(弓↓鉄砲)

専(セン) ④ 巾は糸巻の象形。子どもが糸巻を手にして離さない

↓ひとりじめするも↓もっぱらにする 例 専任・専属・専門

尋(ジン) ② 𠂇は手の象形。エは左、ロは右。𠂇は左手と右手。両手を広げた長さを単位としたもの(約一・五メートル)

↓ひろ(手をひろげるの意) 例 千尋(ちひろ)の海。

士と寸との会意・形声字。

官吏がきまりに従って物をとりきめるところ。

① 役所(〇〇寺というのは役所の名前)

② 僧院

③ 部首としては「きまり(寸と同じ)」の意味がある

侍

① 役所につとめる人↓君側にあつて奉仕↓役人(文官)

↓君側にはべる 例 侍従・侍医・侍女

↓武士(武官) 例 侍・侍所

注 さむらいはさむらう(君側に侍る意)人という意味のことは。

参考 字音と字訓 (二)



同じ Album というつづりが、英語ではアルバム、独語ではアルバム、仏語ではアルバムと異なつて発音されるように、欧州全体に匹敵する広い中国のことだから、地方によつて一つの漢字が異なつて発音される。そのうえ、時代による発音の変化もあるので、一つの漢字がいくつもの発音を持つのはやむをえないことである。ふつう、わが国にはいつてきた時代によつて、『唐音』『呉音』『唐音』という区別をしている。

特

① 祭礼の犠牲に供するため役所に飼われている牛

↓特別の牛↓特別(それだけ)↓独特(ひとり)

注 トクの音は犢(子牛)による。

待

① 役所に行つてその処置をまつ

↓まつ 例 待望(待ち望む)・待機・待命

注 寺の音の変化 ムがタイと発音される。

時

③ 太陽(日)の運行が『とき』の単位

↓とき

持

③ きまりを手にする

↓まもる 例 護持・持戒・持仏(守り本尊)

↓たもつ(長く続ける) 例 持久力・持続・維持・持病

参考 混同される音

サ行音とタ行者とはよく通じあう。子どもは、お父とうさんをお父たんと言う。汽車をキチャと言う。侍・詩・持はこの例である。また、シ・チはヂ・ジと発音されやすい。時・侍がこれである。また、シ・チがサイ・タイと変化するのも英語の発音と似ていておもしろい。



ついでに書くと

シ↓サイ	ニ↓タイ
シ↓柴	チ↓胎
シ↓宰	チ↓持
シ↓奈	チ↓待
シ↓ナル	
サイン	チック
signal→sign	tick→tie
ミ↓マイ	ミ↓カイ
ミ↓妹	キ↓改
ミ↓妹	キ↓塊
ミ↓ル	キ↓グ
マイル	カイト
milk→mile	king→kite

【注】漢音はチ（シの変化） 呉音はジ（チ）。

詩 ③ 字数や言（ことば）の表現のうえに一定のきまりのある文

↓韻文 例 漢詩・新体詩

【注】昔は形式・内容ともに重んじたが、今の詩は形式にとらわれない。

侍 ③ 心に一定の頼るべき基準が確立している

↓心にたのむところがある 例 衿侍（熟語編参照）

等 ③ 竹筒（竹ふだ、昔の記録）をきまりよく整理する

↓順序立てる 例 等級・一二三等

↓同類を集める（ひとしい） 例 同等・均等

問 次のことばの意味を考えよ。

一、持病 二、持戒 三、待機 四、怙恃

答 一、長く続いている病
 気。二、仏の戒を守る。三、
 機会を待つ。四、たのむ。
 （父無くんば何をか怙ま
 ん。母無くんば何をか恃ま
 ん——詩経）

五



片方の手の象形。指が五本あるので「いつつ」を表わした。指事字。

① いつつ 例 伍

② 指で示す 例 吾

伍

① 軍隊では五人を一組みとし、部隊の最小単位とした。この長が「伍長」である

↓ 隊伍 伍が組んで隊となり、行動する

↓ 落伍 隊列から抜け落ちる

吾

② 自分の顔を指さして「ぼく」と言う。口を指さしたのが吾で

ある↓われ



注 鼻を指さしたのが「自」と「私」である。自と私、ともに鼻の象形である。

語

吾言うという意味の会意・形声字

↓ かたる 例 豪語 (大きな事を言う)

悟

心に吾を認識する (他人のよしあしはよくわかるが、自分を認識することはむずか

しい)

↓ ことば 例 語義・語録・敬語

↓ さとる 例 悟得・了悟・覚悟

寤

ねむり (寝) からさめて吾にかえる

↓ さめる 例 醒寤・寤寐にも忘れぬ

ア (人) 又 (手)

前に行く人を、後ろから手をかけた形。

① 後ろから追う

↓ ② 追いつく

↓ ③ かまえる

及

× 筴 キユウ

① 後ろから負^おう竹製の箱

↓書物を入れる背負い箱（木製の負いばこは「板」と言った）

急 キユウ

① 後ろから追うときの心（当は及の変形）

↓いそぐ 例 至急・緊急・急行

↓あわただしい 例 性急

↓にわか 例 急激・急変

× 汲 キユウ

③ 水をつかまえる

↓くむ 例 汲水・汲出・吸引

↓いそがしい 例 汲汲

吸 キユウ

③ 口でつかまえる

↓すう 例 吸入・吸引・吸収・呼吸

扱 （キユウ）

③ 手でつかまえる

↓あつかう 例 取り扱う・扱い方

級 キユウ

糸を扱いやすいようにする

↓分類する 例 学級・高級品

↓順序立てる 例 階級・進級

問 次のことばの意味を考えよ。

一、笈を負う 二、汲汲 三、汲引 四、吸引

令 レイ

△（集）P（しるし）

天子が諸侯を召集して授けるしるし

① 諸侯を認証する辞令

答 一、他郷に勉強に出ること。昔の人

は書物を笈に入れ、これを背負って旅立ったので。 二、休まずに努めること。

井戸の水汲みは、おろす、上げる、あけるの連続反復で休めないから。 三、①

汲み上げる。②水を引き入れる。③人物を登用する。 四、①吸い取る。②吸い

込む。③人を引きつける。

- ↓ ② 役所から出る書状 例 政令・法令
- ↓ ③ りっぱ（よい） 例 令名・令聞
- ↓ ④ つめたくきびしい

命 メイ

- ① ロで直接に伝える令

↓ 命ずる

↓ 天命（天の命令）

↓ いのち（天命によって決められる）

齡 レイ

齒・ネンシ（年齒）・令・（生命）

↓ とし 例 年齢・老齡・妙齡

鈴 レイ

③ 金属で作ったよい音を立てるもの

↓ ずず 例 銀鈴・風鈴 ギンレイ フウリン

【注】中国音では令はリン。鈴の音色を直接表わしている。

× 玲 レイ

③ 玉が美しい。玉が美しい音を立てる。

↓ すきとおるように美しい（水晶）

↓ 輝くように美しい（ダイヤモンド）

↓ リンリンと美しい音を立てる

× 怜 レイ

③ 心がよく働く

↓ さとい（賢い） かしこ 例 怜憫 リ

冷 レイ

④ 法令は氷（こ）のように

↓ つめたい 例 冷水・寒冷・冷凍

零 レイ

④ 同じ雨なのに冷たく感ずるのは

↓ しずく（零の本義）

↓わずか 例 零細・零余
↓おちる 例 零路・零落

【注】今では数字の0に用いる(仮借)。

問 次のレイを漢字で書け。

一、□落^{レイ}ニ、□害^{レイ}三、□瓏^{レイロウ}四、電□五、適□^{レイ}

答 一、零 二、冷 三、玲
四、鈴 五、齡

兪^{ケン}

⑩ 兪 へ(集)・口^{くち}・人^{ひと}

例 公卿兪議^{クギョウセンギ}

- ① 人々が集まって意見(口)を述べる
- ② 良い考え(物)を求めること
- ③ つまらぬもの(むだ)を省くこと

検^{ケン}

④ きびしい (選択が厳格だから)

② 書物(木)により良い考えを求める

↓しらべる 例 検査・検察

【注】昔の書物は木の札か、竹の簡であった。

驗^{ケン}

② 多くの馬の中から良い物を求める

↓ためす 例 実験・驗算

儉^{ケン}

【注】馬は見かけだけではわからない。乗って走らせてみなければならぬ。

③ 人の生活の中からむだを省く

↓つづまやか 例 儉約・節儉

險^{ケン}

④ きびしい崖^{がけ}は？

↓あぶない 例 危険・冒険

劍^{ケン}

【注】 卩は崖の意味の部首。

④ きびしい刀は？

↓つるぎ 例 刀劍・銃劍

問 次のケンを漢字で書け。

一、探^{ケン} □ ニ、冒^{ケン} □ ニ、試^{ケン} □ 四、勤^{ケン} □ 五、銃^{ケン} □

六、実^{ケン} □ 七、保^{ケン} □ 八、約^{ケン} □ 九、討^{ケン} □ 十、事^{ケン} □

答 一、検（探り検べる） ニ、
 險 三、驗 四、儉 五、劍 六、
 驗 七、險（危険保証） 八、儉
 九、検 十、検

俞^ユ

⑩ 俞^い 俞^な（集）・月（舟）・川（川）

① 川に舟を集める

↓② 品物を望む所に運ぶ

輸^ユ

② 車で品物を望む所に運ぶ

↓はこぶ 例 輸送・運輸・輸血

【注】 今では舟で運ぶのにも輸を使う。輸入・輸出は、俞入・俞出のほうが理屈に合っている。

愉^ユ

② 心を望む所（望ましい状態）に運ぶ

↓たのしい 例 愉快・愉悦

諭^ユ

② 言（ことば）により人を望ましい状態に運ぶ

↓さとし 例 教諭・説諭

【注】 先生は、わからない生徒をわかる所まで運び届けなければならないので、教諭と言う訳である。

× 瘵^ユ

② 病人を望ましい状態に運ぶ

↓病気がいえる 例 治療・平癒・快癒

注 癒という字もある。

× 諭 ユ
② 口により人を望ましい状態に運ぶ

↓さとす (本義は諭と同じ)

↓たとえる 例 比喻

注 たとえ話を用いてさとすとわかりやすいので。

トウ
偷 チュウ
② 物を運びさる人 (ただし好意でない)

↓ぬすびと 例 偷盗 (チュウトウ)・偷安

注 シュウ
舟の音が变化した。

問 次のユを漢字で書け。

一、運□ニ、快□三、□楽四、説□五、比□

答 一、輪ニ、癒三、

愉四、諭五、諭六、

病気がなわること。七、熟

語編参照。八、告げさとす。

次のことばの意味を考えよ。

六、平癒七、偷安八、告諭

木をたてに横に交差させ、組み合わせた形。

音は交差のコウ。

構 コウ
① (木を) さしわたす

② 組み立てる

構 コウ
① 木を 左右前後にさし渡し組み立てる

↓かまえる 例 構築・構内

講 コウ
①② 言(ことば)を組み立て、それを相手にさし渡す

↓説き話す 例 講義・講演・講話

購 コウ

① お金を相手にわたし、交換に品物をもらう

↓あがなう（買う） **例** 購入・購読

注 貝は財貨（お金）の意味の部首。

溝 コウ

① 水をこちらからあちらへとさし渡す設備

↓みぞ 例 排水溝

問

次のコウを漢字で書け。

一、☐堂 コウ 二、☐買 コウ 三、☐造 コウ 四、☐聴 コウ 五、☐海 コウ

次のことはの意味を考えよ。

六、購読 七、購読 八、構想

答 一、講 二、購 三、

構 四、講 五、溝 六、

新聞や書物などを購入して

読むこと。七、書物を読ん

で講義すること。八、作品

の組み立てを考えること。

且 ソ

地上に同じ物が三つ積み重ねられている形である。三は多いことを示す。

① 物をたくさん積み重ねる

② 積み重なる

租 ソ

② 積み重なった稲は税として納めるために用意されたものである

↓税 例 租税・地租

注 昔は収穫した稲の一部を国費にあてるために納入した。これが租税である。今

は金で納めるので、税金と言う。

粗 ソ

② 禾は穀のついたもの。臼でついて穀を取れば米になる。祖税用は長く保存されるので禾であるが、家で保存するのは米である。ただし、精白しない米である

↓玄米（粗米）
あらいまい

注 玄米を臼でつくると黒皮やぬかが取れて精米（白米）となる。玄とは黒の意。

查^サ

- ↓あらい 例 粗雑・粗悪
- ① 書物(木)を積み重ねるのは？

↓しらべる 例 調査・検査

注 ㇿがㇿに变化するのを同行相通と言う。よくある音韻変化である。

祖^ソ

- ② 父・祖父・曾祖父・高祖父と、重ねられたのは？

↓先祖

注 ネは神の意味の部首である。先祖様は神様である。

組^ソ

- ① 糸を重ね合わせて作ったのは？

↓くみひも

↓(糸を)くむ

例 組織・番組

阻^ソ

- ② 崖が重なっている所は？

↓けわしい 例 險阻・峻阻^{シュン}

↓はばむ 例 阻止・阻害

×疔^ソ

- ② 積み重なった病氣とは？

↓はれもの 例 癰疽^{ヒヨウ}

助^{ジョ}

- ① 力を積み重ねるとは？

↓たすける 例 援助・救助・助手

問 次のことばの意味を考えよ。

- 一、阻害 二、粗野 三、改組 四、地租

答

一、崖が行く手をはばむように、行動を妨げること。 二、野は野卑。あらうばくて卑しい。 三、組織を改めること。 四、土地に対して課する税。

青

⑩ 青主(生)・月(丹)

丹石という石から染料を取る。その色は？

① あお(丹より生まれる)

② すぐれている

清

① 水の青くすきとおって見える状態

↓きよい

例 清潔・清新

晴

① 空が青く、日が出ているときの天気

↓はれ 例 晴天・快晴

情

② 心のすぐれた状態(真心)

↓なさけ(思いやりの心)

例 人情・情愛

請

② 真心をこめて言う

↓こう 例 請願(こい願う)・要請・請求

靖

② 落ち着いて静かに立っている

↓やすらか 例 靖安

↓しずめる 例 靖乱

静

② 争いのないすぐれた状態

↓しずか 例 静寂・静止・閑静

澗

△水が静かに流れて波も立たない所

↓ところ 例 長澗・澗八丁

晴

② 目の中で最もすぐれた所

↓ひとみ 例 点睛・瞳睛

【注】 青い目だから、西洋人だ

ろうと考えてはいけない。

問 次のことばの意味を考えよ。

一、情義 二、情誼 三、懇請 四、動靜



答 一、人情と義理。 二、情の深い

交わり。 三、熱心におりって願

うこと。 四、動くのと静止するのと、

つまり、物事の様子。

主

主 燭台にあかりのついている形。あかりは家の中心に置かれる。

① 中心 例 主人・主将・国主

② (中心に向かって) 集まる (集中)

柱

↓はしら 例 柱石・支柱・電柱

【注】 シュ↓シユウ↓ジュウ

← ←

チウ↓チュウ

注

② 川の水は中心である海に集まる

↓そぞぐ (海に注ぐ) 例 注水

↓集中する 例 注意 (心を集中する)・注視 (視線を一点に集める)

× 註

② 字句の意味を明らかにするために、説明のことばを集める

↓註釈・註解

住

② 人が集中する↓村ができる

↓すむ 例 居住・移住・安住・住民

↓とどまる

駐 チュウ

② 馬が集中する

↓ 軍隊がとどまる 例 駐屯 トン

↓ 役人がとどまる 例 駐在大使

↓ 馬をとどめる

↓ 乗り物をとどめる 例 駐輦 レン・駐車

問 次のことばの意味を考えよ。

一、柱石 二、進駐 三、傾注

答 一、柱や土台石は家を支えるもの。そのような重任を負う人をつ。二、外国に軍隊を進め、とどまること。三、ある事に心を傾け注ぐこと。

𦏧 セン

⑩ 𦏧 戈は武器（ほこ）。ほこを交え互いに傷つけあう。

① 傷つきそこなわれる

② 少なくなる ↓ わずか

浅 セン

② 水が少なくなつてわずかしかない

↓ あさい 例 浅瀬・深浅 あさせ シンセン

↓ 貧弱 例 浅才

銭 セン

② わずかな額のお金

↓ 銭は円の百分の一

× 賤 セン

② 財産がわずかしかない

↓ まずしい（貧乏）

↓ いやしい（身分が低い） 例 下賤

× 餞 セン

② わずかな食事と謙遜して言う けんそん

↓ 送別の宴（はなむけ） 例 餞宴・餞別

注 送るがわが謙遜して餞と言つ。 ソン

箋 セン
注 はなむけは馬の鼻向けで、旅立つ方角に馬を向けて見送るの意。
 ② わずかな竹ふだ（簡）

↓ちよつとした記録をするもの

例 便箋・通信箋・処方箋

盞 セン
 ② 小さな容器 浅い容器
 ↓さかずき

注 杯（さかずき）は木製のもの。

栈 サン
 ② 小さな木の切れ、細い木の切れ

↓障子のさん

例 栈橋・栈道

次のことばの意味を考えよ。

答 一、病気を処置する方法（薬の調合）を書いた紙片。二、いい技術。自分の技術を謙遜して言う。三、①不正な事をし得た金銭。②質の悪い銭。四、熟語編参照。

問

一、処方箋 二、賤技 三、悪銭 四、栈道

喬 キョウ

天 ヨウ (天) ・ 高 (高) $Yo + Ko = Kyo$

頭が曲がった人。

① 高くそびえる（高が「だかど」の象形） **例** 喬木・喬松

② そりかえる（天の転義） **例** 橋

③ いばる（そりかえり、高ぶる） **例** 驕

橋 キョウ
 ② 橋のまん中が高くそり返った形をしているもの（アーチ形）

↓太鼓橋（橋の本義）↓橋

注 力学的にも強いので、中国には昔からこの形のものが多い。

驕 キョウ
 ① 背の高い馬

× キョウ
嬌

↓勢いがよい 例 驕陽（はげしい日光）
↓たかぶる（おごる） 例 驕奢・驕恣
① 背の高い（豊麗な）婦人

↓なまめかしい 例 嬌姿・嬌羞

↓愛らしい 例 嬌児・愛嬌

× キョウ
蕎

① 背の高く育つ植物

↓そば（茎が高く伸びる）

キョウ
矯

② “そりかえた矢”……では役にたたない

↓ためる（まっすぐにする） 例 矯正

↓曲がっている（いつわる） 例 矯偽・奇矯

× キョウ
僑

この僑は高の本義“たかどの”。人が建物に身を寄せる意

↓仮のやどり 例 華僑（中国人の

移住した者の称）

問

次のことばの意味を考えよ。

一、奇矯 二、矯正 三、驕気 四、嬌児

答 一、言行がふつうと変わっていて正常で

はないこと。 二、正常でないものを矯めて

正しくする。 三、おごり高ぶる心。 四、愛

らしい子ども。

ケイ
経

⑩ 罽織機（はた）に“たて糸”を張った形を表わしたもの。

① たて糸

② まっすぐに通す

③ 基本（重要）

ケイ
経

① 織機に張った“たて糸”

↓たいせつな書物 例 経典・经文

注 織機の横糸は一本だけで、切れても簡単につなげるが、縦糸は切れたらおしまいである。孟子の母は、学問を中絶するのはこのようなものだ、と言って織りかけの縦糸を切って、孟子に教えたと言う。

↓おさめる（いとなむ） 例 経営・経済

徑^{ケイ} ② つづら折りの山道の所々に設けられたまっすぐな近道

↓まっすぐな道 例 経線（地図の）

↓近道 例 直径（円の）

↓小道 例 径路

注 イは行の省略した形。道の象形（𡵓）で、道の意味を表わす。

注 直径は、円周上の一点から反対がわへ、円周に沿って行く行き方に対し、近道の意である。

輕^{ケイ} △ 径（小道）を走らせる車（徑車）

↓かるい車↓かるい 例 輕快・輕便

↓かるはずみ（輕率）↓かるんずる（輕蔑）

莖^{ケイ} ② 草のまっすぐに通った部分

↓くき

脛^{ケイ} ② からだの中でまっすぐに通った部分

↓すね

頸^{ケイ} ② 頭の部分でまっすぐに通った部分

↓くび

注 首を「くび」と読むが、そのくびは頭の意味である。首を取る、首領、元首、皆、頭であって頸ではない。首を取るとき、頸を切るので、首と頸とが混同する

参考 異字同訓と同字異訓



・見は英語の see、看は look、観は observe、視は inspect にあたり、国語の “みる” にあたる字である。漢字は英語のように、同じ “みる” にしても、これを細かく具体的に区別して表現している点、国語とたいへんな相違点を持つ。これに反して、上は名詞にも動詞にも使うので、国語の “うえ・かみ” や “あがる・あげる・のぼる” にあたる。漢字に同訓の字がたくさんあり、反対に、一字に数訓あるのは、右のように日中両国語の性格の相違に原因する。これを不便と考えるより、彼我の特長を発揮して表現を豊かにするものと考えるべきであろう。

× 剋 ^{ケイ} △刀 (一) で頸を切ること

↓くびきる

ようになったのである。

× 瘥 ^{ケイ} ② からだの中を通っている ^{ずじ} の病 ^び 気

↓ひきつれ (瘥^{ケイ} 瘥^{ケイ})

× 勁 ^{ケイ} ② つらぬき通す力があること

↓つよい 例 雄勁

問 次のことばの意味を考えよ。

一、経済 二、経線 三、軽便 四、刎頸の交わり

トウ
易
チヨウ

日 (太陽)・シ (陽光)・丁^{トウ} (チヨウ)

太陽の光のふりそそぐこと。

トウ↓チヨウ↓デヨウ

シヨウ↓ジヨウ

↓ヨウ

答 一、経^{ケイ}国^{コク}済^ジ民^{ミン}の略、国家を経^{ケイ}め、人民を済^{すく}うという意味。人間生活に必要な物の生産・分配・消費する行為についてのいっさいの社会的関係を扱う。転じて金銭のやりくり。二、地球上の位置を示すために、両極を通じて南北 (つまり縦) に引いた線。三六〇度に分ける。子午線とも言つ。子は北、午は南の意。三、手^テ軽^{ケイ}で便利なこと。四、この親友のためなら頸を刎^ははねられてもよいという親しい交際。

① 日があたる

② 日あたりがよい

③ 長ながい（仮借）
チヨウ

湯トウ

① ためた水に日があたる

↓日なた水（湯の本義）

↓ゆ 例 銭湯・薬湯・湯治

注

昔は今のように火が自由ではなかったから、太陽光線を大いに利用したものであろう。

陽ヨウ

② 日あたりの良い崖がけ（β）

↓南面した斜面（山の南側） 例 山陽

↓あたたかい 例 陽春

↓あかるい 例 陽気

↓日 例 太陽・陽光

注 中国山脈の南側を山陽地方というのは、よく陽の本義を用いている。

場ジョウ

② 日あたりの良い土地

↓よいところ（場の本義）

↓ところ 例 牧場・工場・農場・戦場

注

場は呉音。漢音はチヨウ。今漢音で読む語はない。農場は、農事をするのによい所の意味、また日あたりのよい所と考えることもできる。

× 暢チヨウ

③ 申は伸の本字。長く引き伸ばす

↓のびる 例 暢達（伸び育つ）

↓のびのび 例 流暢・暢達（文章や言語がのびのびとしていて意味がよくわかる）

こと

【注】申は^申申で、両手で棒を引きのばす形。

もうすゝの意に仮借されたので、伸の字が作られた。

腸 ^{チヨウ}

③ 人体の中で最も長くのびのびとして

いる部分は？

↓はらわた 例 大腸・小腸

傷 ^{シヨウ}

△傷は^傷傷の略。日にあたるのではなく

て、矢にあたること。傷は人が矢にあたること

↓きず 例 負傷・重傷

答 一、山は南側が日あたりが良いが、

川の場合はその北側が日あたりが良い。河陽は川の北側を言う。唐の都で

名高い洛陽は、洛水の北側にあるので、この名がある。二、熟語編参照。三、

訓読では腸^{はらわた}を断つと読む。非常に悲しい思いを言う。四、軍人の受ける傷

は鉄砲玉によるものか、切り傷である。

前者は矢きずの傷でこれを表わしている。瘡は、切りきず。戦傷を受けた軍

人を巧みに表わしたことばである。

【注】傷は本来矢きずであるが、刀きずは創、槍きずは瘡^{ソウ}、切りきずは瘻^イ。

問 次のことばの意味を考えよ。

一、河陽 二、流暢 三、断腸 四、傷痕 軍人

莫 ^{マク} ^{バク} ^ボ

草と草の間に太陽が隠れた形。

太陽の沈みゆく姿を表現した字である。

① 日が隠れて見えない

② タぐれ

③ (草原が) 果てもなく広い

【注】莫の音は、^ママが草の茂^ボっている形であるのによって、本来は^ボ茂である。

【例】寂寞(一、果てもなく広い)③ 二、だが何もない① 三、タぐれ② この三

× 寔 ^{バク}
① 家の中に人氣がない

↓ ひっそりと静まりかえっている

↓ さびしい 例 寂寞

慕 ^ボ
② タぐれ時の心の状態は？

↓ 人がしたわしい

↓ したう 例 恋慕・敬慕・慕情

募 ^ボ
② タぐれの力め

↓ 放牧の家畜を呼び集める

↓ つのる 例 募集・公募・応募

暮 ^ボ
② 莫が「タぐれ」の本義に用いられなくなったため、これに「日」を加えて「タ

ぐれ」専用の文字を作った

↓ タぐれ

↓ 年のくれ 例 歳暮

墓 ^ボ
② 人生の暮れ、終着所の土、それは？

↓ はか 例 墓地・墓標・墓碑

注 平坦なのが墓 土を盛ったのが冢、高く築いたのが墳である。

幕 ^マ
② タぐれのように家の中を暗くする布

↓ まく 例 帷幕・幕府・幕政

注 漢音はバク、呉音はマク。

膜 ^マ
△ 幕の「物を隔て」たり、「物を囲ったり」する意の莫と月（肉月）とで、

↓ 臓器を隔てるもの 例 横隔膜

参考 漢音・呉音・唐音

●漢音は、漢字の最も代表的な字音である。わが国が、中国と正式に国交を結ぶようになって、唐の国都長安の標準的な発音を取り入れ、以後漢字の代表的な標準音

となったものである。京・丁・明・行という発音がこれである。

●呉音は、それ以前、仏典などとともに、中国の南部地方（呉と呼ばれる）からはいつてきた音で、京・丁・明・行という発音が



これである。仏教に関係あることが多く、古くから親しんでいるため訓のように感ぜられるものもある。絵は漢音だが、絵は呉音で、これなど字訓と誤られることが多い。

●唐音は、唐よりずっとのち、明・清時代の音であるが、これを唐音と言うのは、中国人のことを唐人と呼んでいたためである。京・丁・明・行という発音がこれである。

↓臓器を包むもの 例 肋膜・腹膜

↓体内の薄い器官 例 鼓膜・網膜

×模^モ ②タぐれで物が見えないので、手で？

↓さぐる 例 摸索

手で物をさぐるときは、手の感触で、見えない物の形を心の中に描く

↓実物とそっくりに心に描く

↓似せる（まねる） 例 模写・模倣・模擬試験

模^モ △似た物をたくさん作る時にいる物？

↓かた 例 模型・模範

【注】木で作ったかたを模 土で作ったかたを型、竹で作ったかたを範と言う。

似せる意味の莫と木とで「木のかた」を表わした。

漠^{バク}

③ 水が果てもなく広く続く

↓海（漠の本義） 所海のように広く平らで何もない所

↓砂漠（砂の海）

海は果てもなく広いので

↓とりとめがない 例 漠然・空漠

×^{バク} 慕

① 日が暮れて道が見えないのに馬を

↓がむしやうに走らせる 例 慕進

↓まっしぐら 例 慕地（地は助字）

×^{バク} 獏

豸は「むじな扁」と言い、四つ足の動物の象形。獣類の意を表わす部首③ とり

とめがない獣とは？

↓実在しない想像上の獣

↓人の悪い夢を食べて邪気を払ってくれるという霊獣

問

模が常用漢字にないため、模を代用さ

せる書き方が通用している。次の模のうち、

正しい用法には○を、模の代用には×をつけ

よ。

一、模型 二、模写 三、模造 四、模範

五、模様 六、規模 七、模倣

ハ、模擬試験

次のことばの意味を説明せよ。

（イ）幕府 （ロ）空漠 （ハ）暗中摸索

答 ○ 一、四、五、六

（イ）武将は陣営に幕を張りめぐらし、

これを宿所とした。ゆえに、武家政治を

幕政と言い、その役所を幕府と言った。

（ロ）空も漠（海）もともに果てもなく

広がっているので、①果てもなく広い様

②つかみどころがなく、要領を得ない様

を言う。（ハ）暗やみの中を手ざぐりで求

める。索は、もつれた糸をほぐすために、

糸口をたどって求める。困難なことだが、

とにかく努力してやってみること。

用 ヨウ

用

牧場に張りめぐらした柵サツの象形で「はりめぐらす」が本義。「用心」は従来、心を用いると解いているが、「心を張りめぐらす」と解くのがよい。柵のどこに破れがあっても、中の牛は逃げてしまう。どこにも破れがないように周囲のすみずみまで心を張りめぐらすのが「用心」である。柵は牧場になくはならぬものゆえ、必要 役にたつ 使う の意がある。

甬 ヨウ
トウ

マは子の頭と同じ。柵サツの上に頭の見えている形。柵の様子を見に、見回っていることを表わしている。

- ① (柵を) 張りめぐらす
- ② (柵にそって) 行く
- ③ (柵の周囲を) まわる

踊 ヨウ

③ 足でぐるぐるとまわる

↓ おどる 例 舞踊

踊 ヨウ

注 踊りというものは輪を作って、ぐるぐる回りながら踊るものである。

× 踊る人形 という意味の字。手足が動くようになって人形で、死者とともに葬ったもの。孟子に『始めて俑を作った人は、その子孫が必ず滅びるであらう』と言って、俑を作った人を憎んだことが書かれている

× 涌 ヨウ

△ 水が湧り出す

↓ わく 例 涌出・噴涌・涌泉

注 地中から、地下水が湧き出ることである。

勇 ヨウ

△ 湧き出る力

↓ 地下水の湧き出るように、からだの中に溢れ出てくる力(溜り水たまのように、

使えばなくなってしまうような力でなく、使えば使うほど漲みなぎってくるよ
うな力)

×湧 ヨウ
ユウ

△涌と同音同義に用いられる

ユウは慣用音。例 湧出・湧泉

通 ツウ
(トウ)

② 柵(ガードレール)にそって道を行く

↓うまくとおれる(通の本義)。漢音トウ

↓すらっとおる 例 通行・便通

[注] 通は、単に「歩」や「行」の意でなく、それがすらっとうまくいくことであ
る。

桶 ヨウ
トウ

① 木を張りめぐらして作った容器

[注] 通人とは、世の中の万事を知りつくした人という意味。

↓おけ

[注] 湯桶読みの桶(漢音はトウ)

痛 ツウ
(トウ)

痛ツウ(トウ) ① からだに張りめぐらされた神経に感ずる病氣

↓いたい 例 苦痛・激痛

[注] 痛みそのものは病氣ではない。からだのその部分が病氣に犯されつつあるこ
とを通信するものである。

痛⇕病氣を通信

↓ひどい 例 痛快・痛感・痛烈

用・口

口をめぐらす。

周 シュウ
ウ

参考

重箱読みと湯桶読み

ジユウバコ

ユトウ

漢字は、二字以上組み合わせられ、熟語として使われることが多い。この場合、上を音読すれば下も音読し、上を訓読すれば下も訓読するのがふつうである。ところが、古くからの習慣で、ジユウバコ重箱のように上を音読し下を訓読するもの、ユトウ湯桶のように

上を訓読し下を音読するものがある。これらを俗に「**重箱読み**」

「**湯桶読み**」と言う。



例 (重箱読み) 役場・中古・肉屋・台所・本場
見本・場所・古本・身分・組曲
(湯桶読み)

① ことばをじゅうぶんに尽くして説明する (本義)

② 物事がよくゆきとどく 例 用意周到

③ めぐる (用の本義) 例 周期・円周・周遊

週 シユウ
③ まわり (周) をまわる (こ)

↓ひとまわり 例 週間

注 曜日が七日でひとまわりするので、七日を週と言う。

× 稠 チユウ
② 稲の手入れがよくゆきとどく

↓豊かにみえる

↓多い 例 人口稠密

注 稠の反対が稀。濃硫酸・稀硫酸と使っているが、濃の反対は淡。

調 チヨウ
② 言 (ことば) がよくゆきとどいたので、物事が?

↓ととのう 例 調和・調節

そのために必要なことは、事前に

↓しらべる 例 調査・調書

【注】わが国では音楽を奏することを「しらべる」と言う。それで、調子・長調・短調などの用法が生まれた。

× 琬 チヨウ △玉を切り、磋り、琢ち、磨いてよく調えること

彫 △よく調えられた玉に最後のみがきをかけて美しく仕上げること

【注】シは「美しい」「がざり」の意味の部首。今ではその前の「ほろ」「ぎざむ」意味に使用している。 例 彫刻

× 凋 チヨウ ②寒さ（こ）があまねくゆきわたると、草木は？

↓しばむ 例 凋落（熟語編参照）

× 蝸 チヨウ ②鳴き声のよくゆきわたる虫は？

↓せみ

【参考】「ととのう」の同訓異字

調 準備がよくゆきとどいてととのう

整 すべてがそろってととのう

斉 一様にまとまってととのう

均 つりあいがととのう

【問】次のことばの意味を考えよ。

一、凋落 二、調馬 三、周知 四、周旋

【答】一、熟語編参照。 二、馬

を調える、馬を乗って訓練すること。 三、あまねく知れていること。 四、周も旋もめぐる。めぐり歩くことで、世

話をする意味に使われる。

カン 莫 タン

黄・土の会意字。

中国の黄河の上流には広大な地域にわたって黄土層がある。

黄土が黄河にとけ込んで常に黄色く染めている。

堇 キン

黄土は、質いたって細かく、粘って扱いにくい土である。

① 黄色い

② 細かい

③ 扱いにくい

注 堇と堇はもとは同じ形。堇は扁、堇は旁つくりに使われることが多い。

×艱 カン
③ 根本から扱いにくい ↓どうにもしにくい

↓ひどくむずかしい **例** 艱渋 カンジュウ

↓なやみ **例** 艱苦・艱難

難 ナン
① 羽が金色(黄)をした美しい鳥(雉)

↓黄鳥(この字の本義)美しい鳥なので、手に入れることが

↓むずかしい **例** 困難・難題

嘆 タン
③ 『ああ、扱いにくいなあ』と思わず口につぶやく

↓なげく **例** 嘆息・悲嘆・愁嘆

ため息をつくことから

↓感嘆(感心して声を出す)

×歎 タン
③ 欠は欠(口を大きく開いた形)

嘆と同音・同義

例 感歎・歎息・悲歎・愁歎

謹 キン
② 言(ことば)の使い方が細かい↓ことばが少ない

↓つつしむ **例** 謹慎・謹言・謹厳

注 ことばをつつしむのが謹、心をつつしむのが慎。

× 僅^{キン} ② 人[・]が[・]少[・]ない

↓ わずか 例 僅[・]少[・]・ 僅[・]々

× 饑^{キン} ② 食[・]べ[・]物[・]が[・]少[・]ない

↓ 凶作 例 飢[・]饑[・]・ 荒[・]饑[・]

↓ うえる

× 瑾^{キン} ① ② き[・]め[・]の[・]細[・]か[・]い[・]黄[・]色[・]い[・]宝[・]玉[・]

↓ 瑾という名の宝石

勤^{キン} ② き[・]め[・]細[・]か[・]に[・]心[・]を[・]動[・]か[・]し[・]て[・]力[・]め[・]る[・]

↓ おこたらずつとめる

注 情の反対。

参考 「つとめる」の同訓異字

力[・]を[・]つ[・]く[・]し[・]て[・]つ[・]と[・]め[・]る

努[・]や[・]れ[・]と[・]言[・]わ[・]れ[・]て[・]つ[・]と[・]め[・]る

勉[・]し[・]な[・]け[・]れ[・]ば[・]な[・]ら[・]ぬ[・]の[・]で[・]つ[・]と[・]め[・]る

務[・]し[・]事[・]と[・]し[・]て[・]つ[・]と[・]め[・]る

観^{キン} △ 諸侯が勤[・]務[・]と[・]し[・]て、天子や將軍に謁[・]見[・]する[・]こ[・]と

例 朝観・参観交代（江戸時代、大名が一年おきに江戸に出て將軍に謁見する制度。

参勤交代で代用している）

僅^{キン} △ 僅[・]か[・]の[・]命[・]し[・]か[・]な[・]い[・]木[・]。朝[・]花[・]を[・]咲[・]か[・]せ[・]て、そ[・]の[・]夕[・]方[・]に[・]は[・]し[・]ぼ[・]ん[・]で[・]し[・]ま[・]う[・]む[・]く[・]げ[・]の[・]木

例 僅花一日の栄（人の栄華のはかないことをたとえて言う）

召^{シヨウ}

刀・口

殿様が『刀』と口にすること。

小姓を「めす」こと。

① 呼びつける 例 召喚・召集

② まねく

③ 小や承の意に仮借される

招^{シヨウ}

① 手でおいておいてしてまねく

↓まねく 例 招待・招聘・招誘^{ヘイ}

【注】 召は目下を呼びつけるのに対し、招はお客を丁重にまねくこと。

詔^{シヨウ}

① 天子が大臣を召して命令を言いつける

↓みことのり 例 詔勅・詔書

【注】 古くは単に上から下への「言いつけ」の意であったが、秦の始皇帝以後、天

子に限って用いるようになった。

紹^{シヨウ}

② 人を招いて、その人たちを結び合わせる

↓引き合わせ 例 紹介

③ 引き承けてこれを継いでやる（継承）

↓うけつぐ 例 紹述

昭^{シヨウ}

② 日の光を家の中へ招き入れる

↓あかるい 例 昭光・昭代

↓あかるくする 例 顕昭

照^{シヨウ}

△火の光が明るい

↓明るくてらす 例 照明

沼 シヨウ

- ↓てらし合わせる 例 照合・対照
- 【注】 日の光の意味にも使う。 例 日照・残照

- ③ 湖水の小さいもの

↓ぬま

超 チヨウ

- ① 召にに応じてすぐさま走り寄る

↓物を乗りこえて直行する

↓こえる (乗りこえる) 例 超越

↓こえる (すぐれている) 例 超人・超特急

- 【注】 超越 ① 跳び越える ② 世俗から遠ざかる ③ ずば抜けてすぐれている

翟 テキ
タク

羽・佳 (鳥)

羽の美しい鳥という意味の字。

- ① きじ (狼の本義)

きじは尾が長くて羽が美しい

- ② 美しい (羽)

- ③ きらきら輝く

- ④ 羽をばたばたさせる

濯 タク

- ② 水洗いして衣類を美しくする

↓すすぐ 例 洗濯

×擢 テキ

- ② きじの羽の中から特別に美しいものを抜き取る

↓よりぬく 例 抜擢

躍 ヤウ
④ 鳥が羽をばたばたさせるように足を？

↓ぬきんてる 例 擢秀

↓おどらせる 例 躍動・勇躍

↓とびあがる 例 飛躍・跳躍

注 タクの音が変化。tak→yak

曜 ヨウ
③ 日の光がきらきらと輝く

↓日の光 例 光曜

↓輝く 例 曜曜

↓天体 例 七曜

注 ヤクの音が変化。yak→yo

×耀 ヨウ
③ 火がきらきら輝きながら燃える

↓輝く 例 栄耀栄華（輝かしく栄え、華と栄える）

𪛗 カン

⑩ 𪛗 草・𪛗 口・佳 鳥

草むらで、鳥がしきりに鳴く。

① しきりに

② 熱心に

注 音のカンは鳥の鳴き声を表わす。中国の文章には鳥の鳴き声をカンカンと表現している。

観 カン
② 熱心に心をこめて見る。こと 例 觀察・観光

観光のときはとりわけ熱心になるので

↓ながめ 例 外観・壮観



勸^{カン} ② 人のために熱心に努力する

↓すすめる 例 勧誘・勧進

権^{ケン} ① 枝葉がしきりに繁茂する木

↓権^{ケン} という名の木 (権の本義)

↓勢いが強い 例 権勢・権力

× 鶴^{カン} △カンカンと鳴く鳥

↓こうのと

× 灌^{カン} ① 水がしきりに音を立てて流れ込む

↓そそぐ 例 灌漑 (田畑に水を注ぐ)

↓流し込む 例 灌腸 (腸に水を流し込む)

注^{カン} 藿はチヨロチヨロという音を表わす。

歡^{カン} △ 霍^{カン}は喜びのあまり出す声を表わす。欠は口を大きく開く形

↓よろこび 例 歡喜・歡声

参考 「よろこび」の同訓異字

歡 わあっと言って思わず叫ぶよろこび

喜 感情としてのよろこび (よろこびの総称)

愉快 楽しいことをして得たよろこび

悦 心の中でいいなと感ずるよろこび

恰 にこにこせずにはられないよろこび

欣 あははと声を出して笑うよろこび

問 次のカンを漢字で書け。

一、□察^{カン} 二、□誘^{カン} 三、□声^{カン} 四、□業^{カン} 五、□呼^{カン} 六、□光^{カン}

答 一、観 二、勧 三、歡
四、勸 五、歡 六、觀

七、カン告八、カン壮九、カン心十、カン測

答七、カン勸八、カン觀九、
飲十、カン觀

噪 ソウ

品(口)・木

木の上に鳥が集まって口をそろえてさえずっている。

① さわがしい

② あわただしい

注 音のソウは騒ソウ(さわがしい)。

×**噪** ソウ

① わいわいがやがやとさわがしい

↓やかましい **例** 喧ケン噪

↓さわぐ **例** 蛙鳴アメイセンソウ蝉噪

×**躁** ソウ

① 噪と同音同語

↓さわぐ **例** 狂躁(狂ったように騒ソウぐ)

×**躁** ソウ

① わいわい騒ソウぎながら歩き回り踊り回る

↓騒ソウぎ踊る **例** 狂躁(狂ったように騒ソウぎ踊り回る)

×**燥** ソウ

① 火をばちばちと燃やす

↓かわかす **例** 乾燥・高燥

×**澡** ソウ

① 水をばちばちとさせる

↓あらう **例** 澡洗・澡室(ふる場)

×**藻** ソウ

② 水の中でゆらゆらとあわただしくゆれている草。

↓も(水草) **例** 海藻

藻のゆらぐのは美しい

↓詩文の美しい表現 **例** 文藻・詞藻

操^{ソウ}

② 手をあわただしく動かす

↓あやつる（巧みに） 例 操業・操作

↓行ない（正しい） 例 操行・貞操

繰^{ソウ}

△ 糸を繰る

② 糸車をがらがらとあわただしく動かす

↓糸をとる

↓糸をくる（繊維を何本も合わせるため次から次へ繭の糸口を拾ってはぐり込

む。今は、繰り上げるが、繰越金などを使う）

× 燥^{ソウ}

② 心がそろそろわとして落ち着かない

監^{カン}

臣（目をみはる）・人（人）・皿（皿に水をたたえる）

皿に満たした水に人が顔をうつして、それを見つめる。

① 水かがみ（監の本義、あとの鑑にあたる）

② 上から見おろす 例 監視

③ 部下を見張る 例 監督

鑑^{カン}

① 昔のかがみは金属を平らに磨たものであった

↓金属のかがみ（鏡）

↓（自分を）みる 例 鑑賞・鑑識・鑑定

↓手本 例 亀鑑・殷鑑

× 檻^{カン}

② 囚人を監視するためにに入れて置く木の？

↓おり 例 檻車・檻送・獣檻

艦^{カン} △海上の戦闘のために防禦の艦を備えつけた舟。

↓おりの格子^{コウシ}
例 欄檻

↓いくさぶね 例 戦艦・軍艦

濫^{ラン} ①水かがみの水が外にこぼれ出る

↓あふれる 例 氾濫^{ハン}

↓度が過ぎる 例 濫用・濫造・濫読

【注】よく乱用・乱造・乱読で代用しているが、これでは「乱暴」でたらめにな
ってしまつて「度が過ぎる」とはたいへんに違つてしまふ。

【注】ランは監^{カン}の変化、監の音もある。

×藍^{ラン} △監^{ラン}という名の草。日本では？

↓あい

【参考】この草を煮とかし煮つめて作った染料の色が「あい色」である。藍汁^{あいじゅう}をさ

らに煮つめると「あお（青）色」の染料が
で上がる。それで『青は藍より出でて、

藍よりも青し』ということわざがある。

弟子^{でし}のほうが生先生よりつぱに

なつたことを表わしたことわざ

である。『出藍^{しつらん}のほまれ』とも

言つ。



【答】一、善悪・真偽・優劣などを見分

けること。二、殷鑑^{インカン}遠からずうんぬ

んは、詩経大雅にある湯王の言。殷

の艦（手本）はすぐ近い所（前代の

夏^{ケツ}にある。つまり、夏の桀王が暴

政によつて滅びたことを忘れてはな

らないという意。夏は湯王によつて

滅ぼされた。三、度の過ぎた読書

読み過ぎ。四、【参考】参照。

【問】次のことばの意味を考えよ。

一、鑑識 二、殷鑑 三、濫読 四、出藍

褻 ジョウ

⑩ 褻衣・口 (褻参照)・井 (古い形は坎で、人が土仕事をしている形)

① 上衣をぬいで、口にわいわい言いながら畑仕事をする事

② 仕事の能率が上がる

③ 上の仮借 ジョウ

醸 ジョウ

①③ 酒がぶつぶつ言って、あわが上がる状態

↓かもす (発酵) 例 醸成・醸酒

↓酒を造る 例 醸造

ジョウ

譲 ① わいわいぶつぶつ言いたいことをじゅうぶんと言うと、自然と相手の立場もわか

り、自分の立場も相手にわかってもらえる。そこでお互いにゆずる気持ちが自然

とわく

↓ゆずる 例 謙譲

④ 酒がじゅうぶんぶつぶつ言って、それがやんだとき、りっぱな酒ができ上がる。そのように、主張すべきは主張してこそ真の理解のうえに立った和合ができ

上がるのだ。譲は「ゆずる」意味ではあるが、「ぶつぶつ言う」という字ででき

ていることは、なんと意味の深いことではないか。謙譲とは、ただ人の言うなり

に従うことではないのだ。

× 穰 ジョウ

② 稲を作る仕事の能率が上がる

↓豊かにみゆる 例 五穀豊穰

嬢 ジョウ

豊かにみのった女 (むすめ)

↓りっぱに一人前に完成した婦人

④ 良い女という意味の「嬢」と同音同義であるが、今は、嬢は「むすめ」、嬢

は「お嬢さん」というように使い分けている。

壤 ジョウ

① 畑仕事をするのに適した土

↓よい土 例 土壌

↓大地 例 天壤無窮

注 土壌は単に「つち」という意味のことばではない。穀物を作り育てる土

「万物の母なる大地」という意味のことばである。

× 攘 ジョウ

△ ロロに言い合う意の褻と手との会意・形声字。相手の意見を口でしりぞけるだけではなく、手まで使うこと

↓手ではらいのける 例 尊皇攘夷（皇室を尊び、夷「外国人」を追い払うという

意味で、幕末に口にされたことば）

戔 サイ

オ（切の仮借）・戈（ほこ）

武器をもって物を断ち切る。

① 断ち切る

裁 サイ

① 衣類を作るべく布を断ち切る

↓裁断

注 デザインから裁断までのうちは変更がきくが、いったん裁断したらもう変更は

きかない。ゆえに、裁断ということは次の意味をもつ。

↓最終的な決着をつける 例 裁判・裁定・決裁

栽 サイ

① 木をりっぱに育てるためには、むだな枝を断ち切らなければならない

• 木を断ち切るとかけて、何と解く？

↓木を育てる 例 栽培・盆栽

×哉^{サイ}

↓木を植える 例 移栽・新栽
① ことば(口)を断ち切る

↓終助詞 例 快哉・豊有他哉

注 快哉は「快なるかな」にあたる。

×戴^{タイ}

① 断ち切って、切り離れた物(異)を次々と？

↓上にのせる(戴の本義)

↓上にいただく 例 推戴・奉戴

↓上からいただく 例 頂戴

載^{サイ}

△戔は戴(上にのせる)の意味。車の上に？

↓のせる 例 積載・満載

↓記事のをせる 例 記載・掲載

×截^{セツ}

① とらえた鳥(隹)を焼き鳥にすべく

↓断ち切る 例 截断・直截

注 切の音が切に。

問

次のことばの読みと意味を考えよ。

一、裁定 二、移栽 三、推戴 四、転載 五、截断

戔^{ヨク}

音(ことばまたは文字を意味する)

戔(戔ではない。地上に立てた境界の目

じるしの木の枝の象形。じるしの意)

① 境界を明言した碑(しるし)のたぐい

② 物事を明瞭に区別する

答一、サイテイ・物事の是非・善悪を判断し決定すること。二、イサイ・植物を別の土地に移し植えること。三、スイタイ・上に推し戴くこと。四、テンサイ・ある記事をそのまま別の書物に掲載すること。五、セツダン・断ち切ること。

職 シヨク

② 耳で物事をはっきりと聞き分ける

↓ 民の声を聞くことは

↓ 役人の最もたいせつな仕事（職の本義）

↓ 仕事 例 職業・就職

注 音は耳と戠でシヨク。

識 シキ

② 言（ことば）の持つ意味を明瞭に区別する

↓ ことばの理解（識の本義）

↓ 物事を見分ける 例 認識・識見

↓ しるし（戠の意） 例 標識

注 音は言と戠でシヨク、呉音はシキ。

織 シヨク
シキ

① 糸にしるしをつけるのは何のため？

↓ 布をおる 例 紡織・染織

はたを織るには手順と準備がいる

↓ 組み立てる 例 組織

注 音は糸と戠でシヨク、呉音はシキ。

幟 シ

① しるしの書いてある布（巾）とは？

↓ のぼり 例 旗幟（旗じるし）

熾 シ

① ② 火が明るく燃える。火の勢いは？

↓ さかん 例 熾烈（盛んで烈しい）

弋 ヨク

𠂇

① 目じるし（標識）

土地の境界線を明示するために立てられた 木の枝 の象形。

× 杙 ヨウ ① 目じるしのために立てた木。

↓ くい

(タイ)
代 ダイ

① かわりだというしるしを持った人。

↓ かわり **例** 代理・代筆

↓ かわる **例** 更代・代納

注 代理人はその証拠となるしるしを持たなければ、その資格を失う。たいせつなものである。ゆえに、弋と人とでこれを表わした

注 音は替 タイ (かわる)。ダイは呉音。

↓ 世 **例** 世代・現代・時代

注 親の世から子の世へと世はかわるので。

貸 タイ △ 次の世代におくる財産 (貝)

↓ 遺産 (貸の本義)

↓ ただで与える

注 一時的にただで与える。

↓ かす **例** 貸与・賃貸・貸出 タイ シュツ
かしだ

注 貰 (もらう) は、貸と全く同じ構造の字であるが、貸は親の立場から、貰は子の立場から意味を取ったので、意味が正反対になっているのはおもしろい。

× 黛 タイ △ まゆ毛をそって、代りに黒くえがくものは？

↓ まゆずみ **例** 粉黛・紅黛・翠黛 スライ

袋 タイ △ 着物 (衣) の代りにからだを包む布

↓ 衣の代用品 (袋の本義)

↓ からだを包むもの **例** 手袋・足袋 てぶくろ
たび

↓物を包むもの 例 紙袋 かみじくろ

注 昔は今のよう裁縫用具が発達していなかったで、ふだん着などは、布をただからだに巻きつけるだけで済ませていた。これが袋である。



式 シキ

① 工作をするときの目じるし

↓ひながた (手本) 例 形式・格式

↓一定のきまり 例 正式・儀式

注 シキは呉音 漢音はシヨク。

方 ホウ

耕作に用いる ずき の象形字。

すきは、生活に最も必要な手だてであった。

① 手だて (方法) 例 方途

② 方角 (四方) 例 方位・方面

③ 四角 例 正方形・長方形

防 ボウ

② 四方を土手 (べ) で囲むのは、村や町を外敵に対して？

↓ふせぐ 例 防壁・防衛

注 中国の都市は四方に防壁をめぐらしている。これが防の本義である。

坊 ボウ

② 家の四方に土塀をめぐらした建物

↓寺院

↓僧の住むところ 例 僧坊・坊舎

↓僧 例 坊主 (もとは坊の主の意) あるじ

↓髪の毛を短く刈った者 例 坊や・赤ん坊

妨^{ボウ}

② 四方を女に囲まれては、仕事に手につかない

↓さまたげる 例 妨害

紡^{ボウ}

② 四方に糸を巻き置き、それを一本の糸により上げる

↓つむぐ 例 紡織・紡績・混紡

【注】糸をよるのに錘（つむ）という重りを使うので「つむぐ」と言う。

肪^{ボウ}

② 肉のまわり（方）の肉は？

↓あぶら肉（皮下脂肪）

【注】脂は「旨い肉」という意味の字。あぶらののった肥えた肉はおいしい。

× 彷徨^{ボウ}

② 行く方向を定めずに、四方のどちらでもかまわずに行く

（あっちへ行ったり、そっちへ行ったり）

↓さまよう 例 彷徨

芳^{ホウ}

② あたり一面（四方）草花におおわれている

↓ぼんやり 例 彷彿

↓かぐわしい 例 芳香・芳草・芳園

↓美しい 例 芳景・芳心

↓敬称 例 芳志・芳顔・芳名

訪^{ホウ}

② あっちへ行き、そっちへ行きしてたずねる（言）

↓たずねる 例 訪問・歴訪

放^{ホウ}

△ 古い形は「放」で、人と文の会意字

↓人を追い払う 例 追放

【注】音は「放」が変化して「ボウ」。そのため、人が方と書かれるようになった。

↓自由に任す 例 放任・放言

問

↓わがまま 例 放縦・放漫
次の芳の違いを述べよ。

一、芳園 二、芳志 三、芳心

次の放の違いを述べよ。

四、釈放 五、放逐 六、放漫

答 一、かぐわしい花園。 二、あなたの
お志。 三、美しい心。 四、自由に任す。
五、追い払う。 六、気まま。

富 フク

⊗

りっぱな酒を入れる容器。

これがある家は豊かな財産家。

① 財産

② 豊か

富 フウ

① 財産のある家

↓とむ 例 富裕・富貴

② 豊か 例 豊富・富饒 フシヨウ

福 フク

① 神の授ける財産

↓さいわい 例 幸福・福運・福利

注 目に見える物質的な財産が富 目に見えない精神的な富が福である。

副 フク

① 財産を二つに分ける

↓半分をひかえに取って置く

↓ひかえ 例 副本・副将

↓補助 例 副読本

注 正副は同じ二つのもので、その一つを正とし、他を副とするのが本義である。

今では、優劣のある劣ったほうが副であり、補助の意に用いられることが多い。

幅^フ

② 豊かな布

↓ たつぷりはばのある布 (幅の本義)

↓ はば 例 走り幅とび・幅員

輻^フ

② 豊かな車 (ぜいたくに作られた車)

↓ やのある車輪 (輻の本義)

↓ や 例 車輻

↓ 集まる 例 輻輳

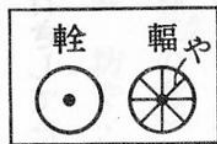
↓ 放射する 例 輻射

【注】 木を輪切りしたような車輪を輦^{セン}と言ひ、放射状の棒 (や) のあ

るぜいたくなのが輻である。

【問】

次の副および輻の違いを述べよ。



一、副本と副読本 二、輻輳と輻射

復^フ

復^フ

豆は二つ重ねたような形をした酒器で

ある。又は、止 (止) をさかさにした形。

足 (歩く) の意がある。

① 重ねる (重なる)

② 重ねて行く (ふたたび)

③ 行ったり来たりする

複^フ

① 布を重ねて作った着物 (衣)

↓ 合わせ (表地と裏地と合わせて仕立てられた着物のこと 複の本義)

↓ 重なり合う (こみ合う) 例 重複・複雑

【答】 一、副本は同じ内容の二つの一

つで、他の一つの控えである。副

読本は、異なった内容の二つの一

つで、他の補助である。二、幅が

中心に向かって集まるの意を取っ

たのが輻輳で、反対に中心より四

方に放射する意を取ったのが輻射

である。

腹 フ

① 肉体の中で、多くの器官の重なり合ったところ

↓はら 例 空腹・満腹

↓心(または度量) 例 腹案・腹心

復 フ

② 一度適った道を重ねて通る

↓かえる 例 往復・復帰

↓元にもどる(もどす) 例 回復・復古

↓くり返す 例 反復・復習

【注】 帰は出発した所にかえること。復は行きの道を通って出発点にかえること。

馥 フ

③ よい香(かおり)が行ったり来たりする

↓かおる(におう) 例 芳馥・馥郁

答一、馥二、
復三、腹四、
複五、覆

覆 フ

③ おおい(西)を取ったり着けたりする

↓おおい 例 覆蓋・覆面

↓ひっくりかえす 例 顛覆

【注】 おおいというものは着けたりはずしたりするものである。それで復と言う

間

次のフクを漢字で書け。一、□ニ、□習三、□案四、□雑五、□面

包 ホウ

フ

胎児が母親の腹の中に包まれている形。

① つつむ(つつみ) 例 包装・包囲

② 腹が大きい

抱 ホウ

① 手でつつむ

↓だく(かかえる) 例 抱擁・介抱

飽 ホウ

- 注** 抱負は手に抱き、背に負う意だが、心（こころ）にいだく望みの意に用いる。
- ↓心にいだく **例** 懷抱・大志（たいし）を抱（いだ）け
- ② 食（く）べ物で腹（はら）が大きくなる

↓腹（はら）いっぱい **例** 飽満・飽食

↓あきる **例** 飽聞（あきるほど聞く）

砲 ホウ

- ① 石（いし）を包（く）んで、それをはじきとばす兵器

↓石弓（いしゆみ）（これが昔の最大の兵器）

↓大砲（今の砲は鉄の弾丸をとばすが、字は昔のままの石である）

×鞆

- ① 物を包（く）むための革（かわ）製の物入れ

↓かばん（国字）

胞 ホウ

- ① 胎児（たいじ）を包（く）んでいる肉体の部分

↓えな **例** 同胞（胞を同じくする意で、同じ母親から生まれた兄弟姉妹）

注 生殖の働きを持つものにこの字をいれる。 **例** 胞子・細胞

×泡 ホウ

- ① 空（く）気を水（みづ）で包（く）んでいるもの

↓あわ **例** 水泡・泡沫（水（みづ）の末（すえ）しぶき）

↓消（く）えやすいもの **例** 泡雪

×庖 ホウ

- ① 食（く）べ物を包（く）み置く所（ところ）（广）

↓料理場（台所）

↓料理人

×庖 ホウ

- ① 泡（う）つぶのよう（な）はれ物（もの）のできる病（び）気

↓もがさ（庖瘡）

注 今は天然痘（てんねんとう）と言う。痘（う）は豆（まめ）つぶのよう（な）はれ物（もの）のできる病（び）気（き）という意味（いみ）。

×袍^{ホウ} ① 中に綿を包んである着物

↓綿入れ (冬の防寒用衣類)

×鉋^{ホウ} ① 中に金を包んである大工道具

↓かんな (刃が木の台の中にはめ込まれている)

【問】 次のホウを漢字で書き、意味を考えよ。

一、□腹^{ホウ} 二、□撃^{ホウ} 三、芽□^{ガホウ} 四、□食^{ホウ} 五、□丁^{ホウ}

答 一、抱腹・(腹をかかえて笑う) 二、砲撃・(砲弾を打ち込んで敵を攻撃する) 三、芽胞・(胞子のこと) 四、飽食・(腹いっぱい食べる) 五、庖丁・(中国の名料理人の名。また料理に使う刃物)

者^{シャ}

※① もの

容器からはみ出るほど、ものがひどくたくさんある。ことを表わした字。

② ひどい

③ たくさん (多い)

④ 初の仮借

音 シャ↓シヨ↓チョ↓ト

sha syo tyo to

煮^{シャ} ② 火をひどく燃やすのは何のため？

↓にる 例 煮沸 (沸は湯をわかす)

×奢^{シャ} ② ひどく大きい顔をする

↓いはる 例 驕奢・奢侈^{キョウシャ}

↓おごる 例 奢恣・豪奢^シ

暑^{シヨ} ② 日がひどく照りつける

↓あつい 例 酷暑・避暑・残暑

【反対】 寒い 【注意】 熱い↕冷たい

諸^{シヨ}

②③ ひどく言(ことば)が多い(本義)

↓多い(多くの) 例 諸侯・諸君

(もろもろ) 例 諸国

著^{チヨ}

② ひどく草が茂る(本義)

↓ひどい(いちじるしい) 例 顕著・著明

↓目だつ(あらわれる) 例 著名

↓あらわす 例 著述・著書

署^{シヨ}

③ 綱(田)のように配置を密にする

↓手分けする 例 部署

↓役所 例 警察署・税務署

注 田^もは網で、網の象形。仕事を細かく手分けして、網の目を張ったように、取り

× 薯^{シヨ}
× 諸^{シヨ}

②③ ひどく根を張り、多くの実をつける植物

②③ ↓いも



こぼしのないように処理する意味の字。警察・税務署など、打ってつけの使い方である。

注 甘薯(甘薯)はあまいもの意で、さつまいもというのは、わが国の原産地が

薩摩の国(鹿児島県)であったため。

緒^{シヨ}

④ 系の初め

↓いとぐち(系口) 例 端緒

↓初め 例 緒言・緒論・情緒(喜怒哀楽の系口という意)

注 音は初であるが、チヨと慣用読みされる。

×渚 シヨ ④ 陸地から水にうつる初めのところ
↓なぎさ

×曙 シヨ ④ 日の出初め
↓あけぼの 例 曙光

【注】 暗黒を破って光明に満ちた世界になる前ふれであるから、良いことの起こる前兆の意に用いられる。

都 ト ②③ 多くの邑 まち (下) を含んだ大きな町
↓みやこ (その国の主権者の住む町)
↓大きな町 例 都市・都会

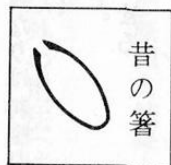
×猪 チヨ ③ 多くの食肉の取れる獣類 (猪とも書く)
↓いの子 (ぶた) 例 野猪 (いのしし)

【注】 猪突猛進 (猪 いのしし がまっすぐに突っ走るように、向こう見ずなことを言う)

×箸 チヨ ① 容器に盛られたものをつまむ竹のはさみ
↓竹ばし

【注】 昔の箸 はし は一本の竹をピンセットのように折り曲げ、両端で物をはさんだ。その様子は鳥がえさをついばむ口ばしに似ているので

「はし」の名がある。昔は、口ばしを単に「はし」と言った。



【問】 次のことばを漢字で書け。

一、あけぼの 二、いとぐち 三、なぎさ 四、もろもろ 五、いちじるしい

【答】 略

辰 シン

はまぐりの象形字であるが、今はその意味には全く用いられない。十二支の「たつ」に用いられるため、方角・時・年月日を表わすのに使われる。

① 方角（東から少し南にかたよった方角）

② 時例 辰刻（時刻の意）

③ 日例 良辰（良い日の意）

④ 天体例 星辰

⑤ 神の仮借

×晨^{シン} ① 日が辰の方角にあるころ

↓あさ（あした） 例 早晨・晨夜

震^{シン} ⑤ 雨を降らす神

↓かみなり（雷）

↓雷鳴のとどろき（ふるえ） 例 震動（雷鳴に伴う空気のはるえが本義。地震の

多いわが国では地震のはるえに使う。中国の地震は、雷の地をはるわせることを

いう）

【注】 神は雷が本義。雷は^雷で、雷のごろごろ鳴る様と雷光を表わしたもの。神の申

は^申で雷光を表わしており、電の^申と同じ意。かみなりは神鳴りで、鳴る神と

も言われる。

振^{シン} △ 手をふるはるといふわせる

↓ふるわせる 例 振動

↓ふるう 例 振興・振武・不振

↓ふる 例 振鈴・三振

×脣^{シン} △ ぶるはるといふわせることのできる肉体の部分

↓くちびる 例 紅脣

唇^{シン}

△口をぶるぶるふるわせる

↓驚いて声を出す（本義）

↓くちびる（脣の代用）

娠^{シン}

△女のからだがぶるぶるとふるえる

↓胎児が動く（本義）

↓はらむ 例 妊娠

×賑^{シン}

△お金が盛んに動く

↓景気がよい（本義）

↓にぎわう 例 殷賑^{イン}

↓にぎわす 例 賑恤^{ジユン}・賑救

【注】貧困な人々に金品を与えることを「にぎわす（賑）」と言う。

【問】

次のシンを漢字で書け。

一、妊^{シン} □ ニ、殷^{シン} □ 三、紅^{シン} □ 四、動^{シン} □ 五、興^{シン} □ 六、夜^{シン}

果^カ

果^カ

種↓芽↓木↓花↓実（最後）

木にくだものなっている形。

① くだもの（果実）

② はて（最後）

③ はたす（仕とげる）

【注】結果は「実（果実）」を結び、意で、原因があつて引き起こされる事からを言

うのに使われる。この原因と結果との関係を「因果」と言う。

答一、娠二、賑

三、屑四、娠五、

振六、晨

菓^カ

① 果が本義（くだもの）以外の用法（はたす）に使われるようになり、くだもの専門に作った字。艹は植物の意

↓くだもの 例 水菓子

↓お菓子 例 茶菓・製菓

【注】菓子は元来くだものの称だが、今はケーキの称。水菓子という呼び方だけが、本来の意味を伝えている。

課^カ

③ 仕事を果たすように言いつける

↓わりあてる 例 課題・課税・日課

↓仕事の区分 例 会計課・課目

夥^カ

① くだものが多く木になっている

↓おびただしい 例 夥多^{カタ}

顆^カ

① 頭のように丸い果実

↓つぶ（丸い形） 例 顆粒

蹠^カ

① 足の中で果実のように丸くふくらんだ部分

↓くるぶし

裹^カ

① 果実を衣（着物）の中につつむ

↓つつむ 例 裹足・裹頭

【注】衣の中に果を入れた字で、裹（うら）と混同しやすいので注意。

裸^ラ

① つつまれた果（裹）が外に出ている形

↓むき出し 例 裸出

↓はだか 例 裸体・赤裸

【注】果の音が変化してラ。

例 格^{カク}—絡^{ラク} 楽^{ガク}—楽^{ラク} 京^{キョウ}—涼^{リョウ}

未^ミ

木

まだ果^ミ ほどには大きくならない 未熟^ミ なくだものの形。

① 未熟

② まだ……ない

味^ミ

① 未熟な果実を “まだ食べられないかな” と待ち遠しく思っ^ミて食^ミべてみる

↓あじをみる (味わう)

↓あじ **例** 味覚・珍味

妹^{マイ}

① きょうだいの中で未熟な女^ミ

↓いもうと **例** 姉妹

注 未^ミ—妹^{マイ} (ミ—妹^ミ) (ミ—妹^ミ) (ミ—妹^ミ)

味^{マイ}

①② 日がまだ上らない、(日が未熟)

↓夜あけ↓くらい **例** 味旦

↓はつきりしない **例** 曖昧^{アイ}

↓愚^{モウ}か **例** 蒙昧・愚昧

寐^ビ

①② 未熟な睡眠 (まだよく寝入らない)

↓浅い眠り (まどろむ) **例** 寤寐^{ゴビ}

魅^ミ

① 未熟な鬼

↓人間とも鬼ともつかぬばけもの (人間の姿をして人に近づき、人をあやしげな力で惑わすという。これが “魅惑する” ことであり、そのあやしげな力を “魅力” という)

問 次のことばの意味を解け。

一、曖昧 二、蒙昧 三、寤寐

答

一、曖昧は日がかげって暗いこと。物事のはつきりしないこと。物事をいう。二、蒙は家、目隠しされた家^{ぶた}で、物事にくらい、無愚かの意。道理にくらい、無知の意に用いる。三、寤は眠りから吾^{われ}に帰るの意で目ざめること。寝^さても覚^さめてもの意。

冒 ボウ

冒

① 帽の象形。帽子を目のところにまで深くかぶることを表わした字。

② こうむる 例 寒冒・感冒

③ おかす 例 冒瀆・冒険

帽 ボウ

① 頭にかぶる布

↓ かぶりもの 例 帽子

曼 マン

冒と又の会意形声字。帽子を目深くかぶった人の手を取り、手を引いてやることを表わした字。

① 引っぱる

② 長くのびる

③ 広がる

【注】 曼の音は冒の変化したバン、呉音はマン。呉音がもっぱら用いられる。

蔓 マン

② 草の長くのびる部分

↓ つる

↓ はびこる 例 蔓延（蔓が延びるの意だが、病気が蔓延する など はびこる

意に用いる）

鰻 マン

② 長くのびた魚

↓ うなぎ

饅 マン

② ふくらし粉で大きく引きのばされた食べ物

↓ 饅頭（頭は顙と同じ意）

幔 マン

② 長く引きめぐらした布

↓ まく 例 幔幕

漫^{マン}

③ 水が広々と広がっている

↓果てがない(あてもなく心のおもむくままに任せる意に用いる)

例 漫遊・漫

歩・漫筆・漫談・漫画

慢^{マン}

③ 心が果てもなく大きく広がる

↓おごりたかぶる 例 驕慢・自慢

↓しまりがない 例 怠慢・放漫

答 一、蔓 二、漫 三、慢
四、慢

【注】慢性という用法は、慢性の意で、長引く性質をいう。

【問】

次のマンを漢字で書きなさい。

一、□延^{マン} 二、□遊^{マン} 三、□幕^{マン} 四、□心^{マン}

非^ヒ

鳥の両翼を広げた象形。

非

翼は左右反対向きについている。

① 反対

② 否定(……でない)

③ 悪い

【注】音は背ハイ(そむく||反対)、またはヒ。

hi^{ハイ}gi^{ヒル}→hii

扉^ヒ

① 左右反対に開く戸

↓両開きの戸(本義)

↓とびら 例 開扉・自動扉

排^{ハイ}

① 反対側に手で押しやる

↓押しのをける **例** 排斥・排除
↓外に出す **例** 排泄・排水

注 バレーボールを排球と訳している。

×**誹** ^ヒ
③ 相手を悪く言う

↓そしる **例** 誹謗

俳 ^{ハイ}
② 非人（人でなし）

↓乞食（食べ物を乞い歩くの意）

↓俳優（昔は川原乞食と言った）

参考

「徘徊」は、乞食のように、あてもなく歩き回るという意だが、

今は「ぞぞろ歩き」の意に用いられ、字も「徘徊」という字に書かれ

る。俳は、わが国では「俳諧」の意で、「俳句・俳人・俳画」などと使われる。



×**霏** ^ヒ
② 雨でない雨

↓霧や霽の類（雨らしくない雨）

↓雨の飛ぶ様（非＝飛） **例** 霏々と降る

×**匪** ^ヒ
② 箱（一）でない箱（箱らしくない箱）

↓円形のはこ（ふつう箱と言えば四角なので、箱らしくない訳）

輩 ^{ハイ}
△車（押し合う）（排）ようにぎっしりとつまって並んでいる

↓多くの車（本義）

↓多くの人（特に仲間の人に使う） **例** 先輩・後輩・同輩

×**斐** ^ヒ
△模様（文）がぎっしりと並べられている

↓模様

↓美しい **例** 斐然・斐たる君子

悲^ヒ

① 心の中でこうありたいと願っていることと反対の結果になってしまったので？

↓ かなしい 例 悲劇・悲運

↓ かなしむ 例 悲痛・悲憤

↓ あわれむ 例 慈悲・大悲

忤^ヒ

① 心の中で思っていることが、思うように言えないので？

↓ いらだつ 例 忤憤

菲^ヒ

② 草でない草(雑草でない、食べられる草)

↓ 野菜(本義)

↓ 薄い(粗末)

例 菲才・菲薄

注 野菜だけの食事では粗末である。

腓^ヒ

① 脛の反対側の筋肉

↓ ふくらはぎ

問

悲憤と忤憤との違いを述べよ。

音^ヒ

古い形は「忤」と同じ。「忤」は「背」と同義。

① 反対

② そむく

音「ヒ」または「ヒイ」

答

悲憤の憤は憤慨の意で、悲しみいきどおること。忤は心の中を思うように言い表わせないでいらだつこと、憤は思うことが心に溢れるほどあつていらだつこと。論語に、「憤せずんば啓せず、忤せずんば発せず」とある。孔子が弟子たちを教えるのに、弟子たちの学習がそこまで達しないいうちは教えなかったのである。ここから「啓発」ということが使われるようになった。諸君も問題に對してよく考え、わかつてはいるのだがうまく言えないときにはじめて回答を見たり、教わったりするという態度が必要である。

倍 バイ

② 人にそむく

↓対立する（本義）

（一つのものが二派に分かれる）

↓一が二になること 例 倍増

剖 ボウ

△一つのものが二つになるように切り分けること

↓さく 例 解剖

培 バイ

△ふえる（倍増）ように草木に肥えた土を加え、草木を育てる

↓つちかう 例 栽培・培養

陪 バイ

△二つ並んだ崖がけや山（本義）

↓一つが他につき従う 例 陪席・陪食

賠 バイ

△お金を二倍にして償うこと。相手に損害を与えた場合、その代償として二倍の金

額を支払う

↓つぐなう 例 賠償

責 セキ

主は束を簡単にした形。束は、木にとげの形を表わした口を加えた字。とげのある木。『とげで刺す』『せめる』意に用いる。

貸した金（目）を返せと言ってせめること。

① せめる（当然なすべきことを求める）

② 義務（当然なすべきことを行なう） 例 責任・責務・職責

積 セキ

② 責任として納入すべき稲

↓祖税（本義）

↓つむ（租（且の項参照）の本義が『稲をつむ』ことで税の義に用いられ、逆に

税ツが本義の積がつむの義に用いられるのはまことに興味のあることである。

績セキ

- ① 糸をとるのに当然なすべき仕事

↓つむぐ 例 紡績

↓仕事 成績・功績

【注】 繊維をより合わせて一本の糸にする仕事、これで麻でも羊毛でも糸になる。錘つむという重りを用いるので「つむぐ」と言う。

× 磧セキ

△石が積み重なっている所

↓かわら (川原)

漬シ

- ① 水で責める (水責め)

↓水につける↓つける 例 味噌漬みそづけ

↓水につかる 例 沈漬

【問】

次のセキを漢字で書きなさい。

- 一、□載セキ 二、実□セキ 三、業□セキ 四、容□セキ 五、職□セキ

【答】

- 一、積
- 二、績
- 三、積
- 四、績
- 五、責

良ケン
コン

𠂔

𠂔 (見) と反対の形。後ろをふり返って見る形を表わした字。

- ① ふり返る (本義)

- ② 立ち止まる

【注】 音は見ケン、変化してコン、またギン。

限ゲン

- ② 崖 (崖) の所で立ち止まる

↓それ以上進めない

根^{コン}

↓ここまでとかぎる 例 極限・制限・限界
 [注] 音は見^{ケン}が濁^{ダク}ってゲン。

② 木^キが立ち止^トま^マっていら^ラれるのは？

↓ね（木は根^ネによって立ち、また成長^{セイカウ}を遂^スげる。たいせつな部分^{ブブン}である）

↓成長^{セイカウ}になく^ナてはならぬたいせつなものの 例 根^ネ気^キ・根^ネ性^{セイ}

眼^{ガン}

△ 目^メの根^ネ（目^メは物^{モノ}体^{タイ}としての目^メ。見^ミるという機^キ能^ネを持^ツった目^メの内部^{ネイ}構造^{コウゾウ}までを含^フめた意味^{イミ}の目^メが眼^{ガン}である。ゆえに、目^メに見^ミえないたいせつな根^ネでこれ^{コレ}を表現^{ハクゲン}した） 例

眼^{ガン}識^シ・眼^{ガン}力^{リキ}・心^{シン}眼^{ガン}

恨^{コン}

△ 心^{シン}の中^{ナカ}に根^ネを張^ハったように、いつまでも忘^ワれられ^レないうらみ

↓うらみ 例 怨^{エン}恨^{コン}・遺^イ恨^{コン}・痛^{ツク}根^ネ

× 痕^{コン}

△ 木^キを切^キつてもあ^アとに根^ネが残^{ノコ}るように、病^{ビョウ}気^キがな^ナおつてもあ^アとに残^{ノコ}るもの

↓きずあ^アと 例 傷^{キズ}痕^{コン}・病^{ビョウ}痕^{コン}

↓あ^アとに残^{ノコ}ったもの 例 墨^{ボク}痕^{コン}・痕^{コン}跡^{セキ}

× 跟^{コン}

△ 足^{ソク}の根^ネ

↓かかと（本^{ホン}義^ギ）

↓人^{ジン}に従^{ツグ}う 例 誤^ゴ読^{ドク}・服^{フク}従^{ツグ}

銀^{ギン}

△ 金^{キン}に從^{ツグ}うもの（金^{キン}に続^{ツグ}く価^カ値^チあるもの）

↓しろがね（金^{キン}はこがね〔黄^{ワウ}金^{キン}〕、銅^{ドウ}はあかがね〔赤^{セキ}金^{キン}〕、鉄^{テツ}はくろがね〔黒^{コク}金^{キン}〕という）

尚^{シヨウ}

尙^{シヨウ}

ハは「分^{ブン}かつ」意味^{イミ}。向^{キョウ}は窓^{マダ}の象^{ゾウ}形^{ケイ}。窓^{マダ}が本^{ホン}義^ギで、窓^{マダ}は南^{ナン}北^{ペキ}向^{キョウ}かい合^{アイ}つて設^{セツ}けられるので、現^{ゲン}在^{ザイ}の用^{ヨウ}法^{ホウ}がある。

① 窓をあけはなつ（本義）

日光や新鮮な空気を家に入れることを↓

② こいねがう 例 好尚

③ たつとぶ 例 尚武・尚古

④ 上の仮借

掌 ショウ
④ 手の上の物をのせるところ

↓ たなごころ（手の平） 例 熊掌 ユウショウ

↓ 手にする 例 掌握

↓ 仕事 例 車掌・分掌

賞 ショウ
④ 上からほうびとして賜わる財貨

↓ たまもの 例 賞与・賞金

賞 ショウ
↓ ほめる 例 賞賛・賞美・褒賞

償 ショウ
△ 人の働きに対して贈る賞（働きに対する代価）

↓ つぐない 例 代償・弁償・償却

× 裳 ショウ
④ 衣の上に着るもの

↓ も（衣がブラウスにあたり、裳はスカートにあたる。これで一組みになるので

“衣裳”という）

常 ショウ
④ 巾は衣の意の布。裳と同じく、腰に巻きつける布、スカートの類

↓ ふだん着（常服）——（本義）

↓ つね（ふだん） 例 通常・日常

↓ つね（きまり） 例 常例・常規

↓ つね（なみ） 例 常識・凡常

堂^{ドウ}

④ 土を高く盛って、その上に建てたりっぱな建物

↓りっぱな建物 例 本堂・講堂・殿堂

↓りっぱ 例 威風堂々

注 音は shò→tyò→tò

← ←

zyò dō

× 瞠^{ドウ}

△りっぱな建物(堂)に目をみはる

↓目をみはる 例 瞠目・瞠若

党^{トウ}

△ 本字は儻。ルもイも同じ意の部首。尚・黨との形声字。五家を比、五比を閭、

五閭を族、五族を党と言つ。大きな集落の称。今は「人の集まり」仲間^{リョ}の意に

用いる 例 政党・徒党

問

次のシヨウを漢字で書きなさい。

一、職^{シヨウ} □ 二、恩^{シヨウ} □ 三、衣^{シヨウ} □ 四、弁^{シヨウ} □

肖^{シヨウ}

ㄣ 小・月 肉 子は親より肉体が小さいだけで、顔形から話し方、癖までよく似ている。

① 似る(特に子が親に似ることを言う) 例 不肖^フ(親に似ない愚か者の意)

② 小(少)の仮借

注 音は小。

× 霄^{シヨウ}

① 雨に似たもの

↓みぞれ(雪まじりの雨)

× 鞘^{シヨウ}

① 刀身に似せて作った革のおおい^{かわ}

消^{ショウ}

↓刀のさや（古くは革で作ったが、のちには木になった）
② 水が少なくなる

↓へる 例 消耗・消磨^マ

↓なくなる（きえる） 例 消滅・消化

↓けす 例 消火・消防

硝^{ショウ}

△水につけると溶けて消える石

↓消石（硝石）

×梢^{ショウ}

② 木の小さい部分

↓こずえ（木の先端）

×逍^{ショウ}

② 小道を歩く

↓さまよう 例 逍遙^{ショウヨウ}（気ままに歩く）

答一、二、四、略三、
末も梢もこずえ（木
末）。末端の意で、本
質的でないもの、価値
のないものを言う。
五、徹夜と同じ意。夜
どおし。

宵^{ショウ}

① 家の中の人が皆似て見える（暗いので）

↓よい（夜・タが自然現象としてのよるを表わしているのに対して、宵は人間生
活の感情が込められたよるである）

問

次のことばの読みと意味を説明しなさい。

一、一肖 二、消耗 三、末梢 四、逍遙 五、徹宵

韋^イ

五（止）は止の反対。足の裏の象形。これを逆にしたのが韦（韋）。足の方
が逆だから↓

① すれちがう（本義）

② 行ったり来たりする

③ ちがう

違^イ

① 道をすれちがう（本義）

↓ちがう 例 違算・違約・相違

偉^イ

③ ふつうの人とはちがった人

↓えらい 例 偉人・偉大・偉業

緯^イ

② 行ったり来たりする系

↓横系（はたを織るとき、縦系〔経〕に対して緯が往復して布を織り上げる）

衛^{エイ}

② 道（行ハル）を行ったり来たりする

↓パトロール（本義）

↓まもる（警戒） 例 警衛・衛兵・護衛

（囲^イ）

② 方々からやって来て取りかこむ（□）

↓かこむ（今の字は囲） 例 包囲・周囲

奇^キ

大・可（よろしい）

大いによろしい。

① めずらしい 例 珍奇・奇計

② 一つ（ただそれだけ） 例 奇数

③ 不思議 例 奇術・奇跡

④ あやしむ 例 奇怪

【注】 音は可が変化してキ。カ→キ

崎^キ

① 珍しい山（海の中に突き出たゴツゴツした岩の多い変化に富んだ山）

↓みさき（ふつう岬と書き、この字は山崎・長崎など、熟語として用いられ、ぎぎと読まれることが多い）

×埼^キ

① 珍しい土地（変化に富んだ景勝の地）

崎と同じく「ぎぎ」と読まれる

×綺^キ ① 珍しい糸（あや模様のある絹糸）

↓きれいな例 綺麗（綺のごとく美麗の意）

×倚^イ ① 人は珍しいものに依りつく

↓依りつく例 倚託・倚頼

注 依（よる）と同音同義。

×椅^イ △ 倚りかがるための木製の道具

↓椅子（いす）

寄^キ △ 家に身を倚せる

↓身をよせる例 寄宿

↓よせる（よる）例 寄稿・寄港

問 次のことばの説明をなさい。

一、経緯 二、綺羅星

亢^{コウ}

人

両足をふんばり、両手をひろげて通せんばをしている形。

① こばむ（拒む）

② ふせぐ（防ぐ）

③ さからう（逆らう）

④ たかぶる（高ぶる） 例 亢奮

注 音は高コウ。

抗^{コウ}

① 手をあげてふせぎこばむ

↓こばむ例 抗命

答

一、縦糸と横糸。これで布が
でき上がる。事の次第、いきさつ
の意味に用いられる。 二、羅は
薄く透き通った絹、綺も羅もとも
に美しいの意で、大空に輝くたく
さんの美しい星のことから、えら
い人の多く集まっていることに
たとえられる。

航 コウ
③ 川の流れ、潮の流れに逆らって舟を進める

↓舟を進める 例 航海・航路・渡航

↓乗り物を進める 例 航空・寄航

坑 コウ
③ 困難に逆らって地中にあなを掘り進める

↓地中に深く掘りあけた穴（石炭や鉱石を採掘するための穴） 例 炭坑・金坑・

坑道

× 杭 コウ
① 高く突き出た木

↓棒く

寮 リョウ

寮 Ⅱ 木・火・日

火を焚いて、日中のように明るくする。

① 火を焚く

② 明るくする

× 燎 リョウ
① 火を赤々と燃やす

↓かがり火 例 燎火

↓野火 例 野燎

寮 リョウ
① 日中のように明るく火を焚く家

↓役所（電燈のない昔は、役所では夜かがり火をたいて仕事をした。それで、役所の名前に用いられた。今では、学生の宿舎に用いられる） 例 図書寮・学生寮

僚 リョウ
△役所（寮）につとめている人

↓役人 例 官僚

× 瞭 リョウ

② 目が明るい

↓ はっきりと見える 例 明瞭

療 リョウ

② 病氣の原因を明瞭にして原因を取り除く

↓ 病氣をなおす 例 治療・療養

問

次のことばの意味を説きなさい。

一、同僚 二、一目瞭然

答

一、同じ役所の仲間の意。今では広く同じ職場に働く仲間を言う。二、ちょっと見ただけではっきりとわかること。

化 カ

ヒには ヒ と ヒ と二つの形があるが、化は後者である。人が倒れている形。

① 人が死ぬ（本義）

② ばける（ばかす）

例 化け物・妖怪変化 ヨウカイヘンゲ

③ かわる（化合・消化など、本質からかわる、変よりも大きなかわり方に用

いる）

花 カ

② 草のおぼけ（変化）

↓ はな

× 靴 カ

② 革のおぼけ

↓ くつ かわ

× 訛 カ

② 人をばかす言（ことば）

↓ あざむく（本義）

↓ 正しくないことば

↓ なまり（方言）

× 囀 カ

② 鳥や獣をだましてとらえる仕かけ（□）

↓ おとり（とらえた鳥を使って、野鳥を油断させてとらえる）

貨^カ③ お金(具)[・] にかわるもの

↓ お金にあたる品物 例 貨物

↓ お金 例 貨幣・金貨・硬貨

加^カ

腕力と暴言の意の力と口。

腕力をふるううえに暴言をくわえる。暴言のうえに腕力をふるう。

① くわえる

② 上にのせる 例 加冠

架^カ② 物を上にのせるための木の台[・]

↓ たな 例 書架

↓ かける 例 架設・架橋・架空

賀^ガ① お祝いのことばのうえに加える祝儀のお金[・]

↓ 財貨を贈って祝う(本義)

↓ いわう 例 祝賀・賀状・慶賀

× 駕^ガ① 馬を加えた車(乗り物)

↓ 馬車(本義)

↓ 乗り物 例 車駕・輿駕^{ヨガ}

↓ 乗る 例 駕行

× 跣^カ① 足の上に足を加えてすわる[・]

↓ あぐら 例 結跏趺坐^{ケツカフザ}

× 嘉^カ① 食物をすすめたうえにその人をほめる

問

↓ほめる 例 嘉賞
↓よい 例 嘉言・嘉肴

次のことばの意味を解きなさい。

一、架空 二、訛言 三、嘉節

𩚑

頭蓋骨の象形。(骨は、これに筋肉の付随したものを言う)

頭蓋骨に口を加えた形。

𩚑

① まるい

② めぐる

渦

② 水中のうずまきめぐるっている所

答

一、空中にたなをかけ渡すことはできないように、事実ありえないことや想像を言う。 二、事実をいつわったことは『流言』の意味と、地のなまりことばと二つの使い方がある。 三、酒食をととのえてお祝いするようなめでたい日を言う。『嘉辰』ともいう。

𩚑

↓うず 例 渦中(うずまきの中の意で、もめごと・ごたごたを言う)

② うずまきの形をした殻を背負った虫

↓かたつむり(蝸牛とも書く)

𩚑

① 金属をとかすのに用いる土製のまるい器具

↓るつぽ

𩚑

① 食物を煮るのに用いる金属製のまるい器具

↓なべ

過

② ぐるぐるとめぐり行く

↓すぎる 例 経過・過程・通過

↓程度を越える 例 過激(激しすぎる)

↓あやまつ 例 過失・過誤・罪過

禍^カ

- ② 神の与える罪過、めぐり合わせ
↓わざわざい 例 災禍・禍乱

商^{テキ}

帝の変形したもの。帝（皇帝）はただひとりの存在であるから↓

- ① ただひとつ

- ② 的（まと）の仮借

滴^{テキ}

- ① ただひとつしずくの水・

- ↓しずく 例 水滴

【注】 音のテキはしずくのしたたる音をも表わしている。

嫡^{（テキ）}

- ① ただひとりの女・

- ↓本妻（正妻） 例 嫡妻・嫡配

- ↓あかつぎ（正妻の子） 例 嫡子・嫡男

【注】 テキは漢音、チャクは呉音。

摘^{テキ}

- ② 目標（的）とするものを手に入れる

↓つむ（ねらい定めて、取ろうとするものを取る）

例 摘出・摘発

適^{テキ}

- ② 目標に向かって進んで行く

- ↓目的地に行きつく（本義）

- ↓うまく行く 例 適中・適正

- ↓ちょうどよい 例 適當・適度

敵^{テキ}

- ② 目標とする相手に対して武器を取る

- ↓目ざす相手 例 対敵・敵軍

- ↓対等の相手 例 好敵手・無敵



問

次のことばの意味を解きなさい。

- 一、摘要 二、適材 三、宿敵 四、過言

答

- 一、要点を摘出するの意で、抜き書きのこと。
二、ある事にうまくあてはまった才能を持つ人を言う。そういう人物を「さわしい地位につけることを『適材適所』と言う。
三、ずっと前から敵対関係にある相手。
四、言いすぎ。

己

曲がりくねった糸をかたどったもの。糸の先端を表わしてキいる。

- ① (糸の) はじめ (紀の本文)

自分がすべてのはじめであるから↓

- ② おのれ

紀

- ① 糸のはじめ

↓はじめ 例 紀元

記

- ① 言(ことば)を糸のように続ける

↓記の仮借 例 紀行

忌

- ② おれがおれがと言っ心はいむべきである
↓しるす(ことばを整理し、順序立てる)

↓いむ 例 嫌疑・忌避

改

- ② あやまちを犯したおのれを鞭うつ
↓あらためる 例 改心・改革

注 カイの発音はカイトの変化(カイト)。

起

- ① 走ることははじめは立ち上がる事

↓たつ 例 起立

↓おきる(おこる) 例 起床・起居・興起

↓はじめ例 起工・起原・起算

辟^{ヘキ}

辟^{ヘキ}と口。辛は受刑者に黥^{いれずみ}を施すときに用いる針の象形。『つらい』『がらい』の意に用いられる。辟^{ヘキ}は、人(尸)に黥を施す意で『罰すること』。

① 口^{たま}(ヘキという名の玉)

② 辟^{ヘキ}(罰)

×壁^{ヘキ} ① 辟が罰の意に用いられるので、玉を加えて玉専用の字を作った

↓たま例 双壁(二つの玉、転じてふたりのすぐれた人物)・完璧

避^ヒ ② 罰から逃げ遠ざかる

↓さける例 避難・避暑

×僻^{ヘキ} ② 罰を受けた人

↓ひがむ例 僻見

↓かたよる例 僻地・僻陋^{スウ}

壁^{ヘキ} △風や寒さを避けるための土の障壁

↓かべ例 城壁・絶壁

癖^{ヘキ} △かたよった(僻)病氣(好みのかたより)

↓くせ例 酒癖・盜癖・潔癖

×譬^ヒ △物事を直接に言うのを避けて遠まわしに言う

↓たとえ例 譬喻^{ヒユ}

×臂^ヒ △いやな人を避けるために使うところ

↓ひじ例 臂鉄砲^{ヒジ}

×闢^{ヘキ} △門の両扉を左右(避)におし開くこと

↓ひらく 例 天地開闢 カイヒヤク

【注】ビヤクは呉音。

×劈 ヘキ △刀で切り開くこと

↓つんぎく 例 劈開・劈断

×霹 ヘキ △雷鳴のつんぎくような音 例 霹靂 シキ

【問】 次のことばの読み方と意味を説きなさい。

一、完璧 二、潔癖 三、僻論 四、逃避

【答】 一、カンペキ・無傷の宝玉の意

で、欠点のない、完全の意に用いる。

二、ケツペキ・不潔（不正）を極度

にきらう性質を言う。 三、ヘキロ

ン・かたよった議論。 四、トウヒ・

避けてのがれること。

白 ハク

親指の象形字。

日の象形をもとにした指事字。

① 親指（大きい指）

② 白い 例 白日・白光 しろ

百 ヒヤク ① 昔、親指で十の十倍を表わした（百は一白の意である）

【注】 白は漢音、白は呉音。 ハク ヒヤク

伯 ハク ① 大きい人

↓いちばん年上の兄 例 伯仲叔季

舶 ハク ① 大きい舟

↓海洋を航行する汽船（外国通いの船） 例 船舶・舶来

×帛 ハク ② 白い布

↓はく（白い厚手の絹、礼物として贈答用に使われた） 例 幣帛

↓記録 例 竹帛（紙のない時代には、竹簡と帛とは紙の代わりに用いられた）

×粕 ハク ② 酒を醸造して、清酒を取ったあとに残る白い米

泊 ^{ハク}
② 海水の白く見える浅い所

↓舟のとまる所

↓とまる 例 碇泊 ^{テイ}・宿泊

拍 ^{ハク}
△ 白はパンという手を打つ音を表わす

↓手をパンと打つ 例 拍手

問 次のことばの意味を問う。

一、功名を竹帛に垂る 二、舶来 三、碇泊

答 一、功績を立て、名を歴史にと

どめること。 二、外国から輸入さ

れる意。 三、船が碇 ^{いかり}をおろして

とまること。

半 ^{ハン}

半

牛(つまり物)を二つに分(ハ)かつという意味の字。

① 物を二つに分かつ

② はんぶん

判 ^{ハン}
① 刀(リ)で二つに切り分ける(昔、証書などを二つに切り、それぞれを分けて保

管し、後日の証拠とした。二つが合えば真偽が判明する)

↓真偽をわかつ 例 判明・判断

↓わり印 例 印判・判子

伴 ^{ハン}
② ふたり一組みの半分(英語のベターハーフ)

↓つれあい 例 伴侶 ^{リョ}・同伴

↓おとも 例 随伴・伴奏

× 袷 ^{ハン}
② 衣の上半分

↓シャツ(ブラウス) 例 襦袷 ^{ジュバン}

畔^{ハシ}

① 田を二つに分ける境のあぜ

↓あぜ（本義）

↓さかい 例 湖畔（湖と陸地との境）

×拌^{ハシ}

② 異なった物を半分ずつ合わせ、手でかきまぜる

↓かきまぜる 例 攪拌

問

次のことばの読みと意味を問う。

一、攪挫 二、相伴 三、判事

宛^{エン}

ㄥㄣ家 タㄣ肉 ㄱㄣる

人が膝を曲げてやっと思えていられるだけの家。

① 小さな家

② 自宅（謙称）

注 石井宛という使い方は、元来「石井宅」と同義で、『石井宅に送る』というのを『石井あてに送る』と誤り読んだもの。

③ 屈曲（ㄱの意味）

×蜿^{エン}

③ 蛇のように屈曲している様を言う

例 蜿蛇・螺々長蛇の列

×豌^{エン}

③ 屈曲した蔓になる豆

↓豌豆（えんどう）

×婉^{エン}

③ なよなよ（屈曲）とした婦人

↓しなやか 例 婉然

↓遠まわし 例 婉曲（直接にその事を言わず、遠まわしに言う）



答

一、コウハン・攪は交（混

じる）の仮借の覚と手との会

意形声字で、かきまぜる意。

カクハンと慣用読みされてい

る。二、シヨウバン（熟語編

参照）三、ハンジ・裁判官。

事のは非をわかつという意味

のことば。

参考 読み方が二つ以上ある熟語

① 音読みと訓読みとあるもの

ジョウゲ フボ スイシャ ソウモク ネンゲツ サンドウ オンシヨク チュウカン シュンブウ ウスイ ハクウン コウヤ
上下・父母・水車・草木・年月・山道・音色・昼間・春風・雨水・白雲・荒野
うえた ちはは みずぐるま くさき としき やまみち ねいろ ひるま はるかぜ あまみず しづも あれの

② 音読みと訓読みでは意味が違ふもの

ショウトウ コンゲン シシヨウ トウスウ ショウブ トウカ
小刀・根元・市場・頭数・勝負・燈火
こがたな ねもと いちは あたまかず かちまけ ともしび

③ 漢音読みと呉音読みとあるもの

ケイテイ キンシヨク ハクイ キョウリョク メイセイ シコウ
兄弟・金色・白衣・強力・明星・施行
キョウダイ コンジキ ビヤクエ ゴウリキ ミョウシヨウ セギョウ

右が漢音で、左が呉音。呉音は歴史が古いので、特定の意味や使い方をするものが多い。

× 怨③ 人の仕打ちに対して、うらみながらも、直接にはそれを晴らすことをしないで、

皮肉など言って、心の中でうらめしく思っている

↓ うらむ 例 怨恨

× 鴛③ 婉然たる鳥

↓ おしどり (常に夫婦仲良く泳いでいるので、仲の良い夫婦にたとえられる)

鴛鴦 (鴛は雄、鴦は雌を言ふ)

× 苑③ 婉然と美しい花の咲き乱れている所

↓ はなぞの 例 苑圃・御苑

【注】動物を飼っている“その”は囲いがあるので“圃”と言う。園は、苑と圃とを

兼ねたもの。

毎

母

十 草母なる大地の恵みを受けて、草が生い茂る、という意味の字。

① しげる (本義) 茂るは重るの意

② 重なる

梅^{バイ} △ 模の仮借 模の本字は某、甘い実のなる木の意

③ 重ねる

↓うめ 例 白梅・梅花

× 誨^{カイ} ③ 言(ことば)を重ね、ねんごろに教える

↓おしえる 例 教誨・誨告

× 晦^{カイ} ① 日が茂った草に隠れて暗い

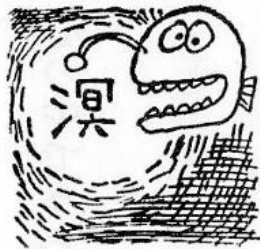
↓くらしい 例 晦冥・昏晦

↓月のない暗夜(みそか) 例 晦日

海^{カイ} △ 晦冥なる海原(海は深くて暗い)

↓うみ 例 海洋・海水

【注】 海は深くて暗いので、^{メイ}溟とも言う。南溟は南方の海、南海と同義。



悔^{カイ} △ 悪いことをして心が暗いこと

↓くやむ 例 後悔・悔悟

【問】 次のことばの読みと意味を問う。

一、晦渋 二、誨言 三、悔悟

【答】 一、カイジユウ・暗く渋い^{しぶ}の意で、文章が

わかりにくいこと、物事がうまくいかないことを言う。 二、カイゲン・教えさとすことば。

三、カイゴ・あやまちに気づき、残念に思うとともに、二度とあやまちを犯さぬよう反省すること。

交^{コウ}

人が立って足を交差させている形を表わしたもの。

① まじわる(まじえる) 例 交際・交通

② まぜる(まじる) 例 混交・交錯

③ かわる(かえる) 例 交換・交代

校^{コウ} ① 両足を交わらせたまま動けないように固定させる木製の刑具。足かせ。罪人をし

らべるのに用いた

↓しらべる 例 校正・校訂・校閲

↓しらべまなぶ所 例 学校

效^{コウ} ① 強制(文) して交わらせまねさせる(効)

↓ならう(まねる)ー(本義)

↓きく(ききめがある) 例 効果

絞^{コウ} ① 糸をねじり合わせてしぼる

↓しぼる 例 タオルを絞る

↓しめる(くびる) 例 絞首刑

×咬^{コウ} ① ロが交わる

↓かむ 例 咬菜(野菜をかむ、つまり、粗食することを使う)

郊^{コウ} ① 邑^{まち}(^β)と邑との交わるところ

↓町はずれ 例 郊外・近郊

狡^{コウ} ① 人によく狙^なれたかしこい犬

↓すばしこい

↓ずるい 例 狡猾・狡獪^{カッ}・狡獪^{カイ}

較^(コウ) △車の中で立つときつかまる鉤^{かぎ}(コウ) 鉤は並んでついているので

↓ならぶ(比)

↓くらべる(比) 例 比較

注 比較は誤読されたものの慣用。

比 ヒ

• ヒは人の象形。人がふたり並んでいる形を表わした会意字。

① ならぶ（本義） 例 比翼・比年・比類

② くらべる 例 比較・比率・無比

【注】ふたり並べば、どちらが大きいか、色が黒いか、すぐ比較が始まる。

×庇 ヒ ① 屋根の下に屋根とならんで設けられた小さい屋根（戸は家のしるし）

↓ ひさし

↓ かばう 例 庇護

皆 カイ ① 百人もの人がならんでいる（白〓百）

↓ みな 例 皆無・悉皆 シツ

×偕 カイ △人々皆いっしょに

↓ ともに 例 偕楽・偕老同穴

階 カイ ① 崖（ㄟ）を登るために並んでつけられた段々

↓ きざはし 例 階段

↓ 順序（等級） 例 階級・位階

各 カク

又は下向きの足の形。口は発音を表わす。口は𠂔（又・𠂔は下向きの両足）の意味の音。

① おりる（下降）

② いたる

③ おのおの

客 カク ② 家にいたる人

↓ きやく 例 来客・賓客

格^{カク}

② 木の根が下へ下へと伸びいたる

↓根を張る（本義）

↓元を固める（基） 例 人格

↓基準 例 格式・合格・資格

閣^{カク}

① 門の扉^{とびら}がおりの（門をしめる）

↓門のかんぬき（本義）

↓りっぱな門のある家 例 楼閣

↓役所 例 内閣

× 擱^{カク}

△筆を持つ手を止める（閣）

↓おく（止める） 例 擱筆

落^{ラク}

① 草や花がしばみにいたる

↓おちる 例 落葉・落花・没落

絡^{ラク}

① 糸が下に落ちてからまる

↓からむ（本義）

↓つながる 例 連絡

↓系すじ 例 脈絡

問

次のことばの意味を問う。

一、合格 二、擱筆 三、落筆 四、籠絡

答

一、一定の基準に合う

意。 二、筆を置くの意で

文を書くのをやめること。

三、筆をおとすの意で文を

書き始めること。 四、熟

語編参照。